令和５年度　　小笠原村立母島小中学校

校内研究　学習指導案集

校内研究　研究主題

『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』

令和６年３月 12 日　小笠原村小中一貫教育研究推進指定校　中間発表

令和５年度
小笠原村立母島小中学校
校内研究学習指導案集
目次

１　校長挨拶
　小笠原村立母島小中学校　校長　井口　寛隆

２　校内研究の主題について

３　研究構想図

４　各分科会から
（１）Ａ分科会

（２）Ｂ分科会

（３）Ｃ分科会

（４）Ｄ分科会

５　令和５年度校内研究を振り返って

６　終わりに
　小笠原村立母島小学校　副校長　旭岡　真司
　小笠原村立母島中学校　副校長　山口　優

お願い

※ 本学習指導案集は教育機関に限定した利用を目的としています。
※ 取り扱いには十分に御注意ください。

１　校長挨拶

小笠原村小中一貫教育研究推進指定校　中間発表によせて

小笠原村立母島小中学校　校長　井口　寛隆

平成 29 年３月に告示された学習指導要領では,「生きる力」を育むという理念を実現するため，具体的手だてを確立する視点から，以下のことを掲げている。

①学びに向かう力
②カリキュラムマネジメント
③資質・能力の育成の三つの柱
④主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
⑤各教科の特質に応じた見方・考え方
⑥教科横断的な視点に立った資質・能力の育成
⑦現代的な諸課題に対して求められる資質・能力
⑧特別の教科 道徳
⑨外国語活動 英語科
⑩特別支援教育

本校は，小学校・中学校の併設校である。そして，卒業後は高校進学のためには出島することが必須である。また，小笠原村教育委員会も小中一貫教育を推進している。これらをふまえ，本校では「９年間を通じて子供たちの将来につながる基礎をしっかりと身に付けさせ，夢や可能性を広げる。」ことを念頭に，教育活動に携わっている。

また，１学年１０人も満たない少人数の学校である。その特性を生かした教育課程の実現に向け,「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」を研究主題として小笠原村小中一貫教育研究推進指定校として校内研修を行ってきた。

特に，本年度は「表現する力」の向上を目指した。本校では『表現』を学習指導要領上で扱われている内容を基に，さらにその範囲を膨らませ，アウトプット全般のことを指し,『表現』とは「児童・生徒が文章で記述，発表，説明することや，実用的なものを製作，芸術的なものを創作したり歌や曲，動作で表したりして，相手が見たり聞いたりして考えや思いが伝わるものすべて」と定義した。その力を伸ばすため小学校・中学校合同の４つの分科会に分かれて研究を進めてきた。これらの本校の校内研究を，小笠原村小中一貫教育研究推進指定校の中間発表としてまとめたものである。

今後もこれらの研究の成果をいかし，母島小中学校の基礎となる３Ｈ（Ｈｅａｄ確かな学力，Ｈｅａｒｔ豊かな人間性，Ｈｅａｌｔｈ健やかな体・安全）を確立し，さらに基礎をもとに築き上げる３Ｃ（Ｃｏｍｍｏｎ Ｓｅｎｃｅ常識，Ｃｌａｓｓ Ｐｏｗｅｒ学年・学級の力，Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ心の交流）の育成を推進していく。

２　校内研究の主題について

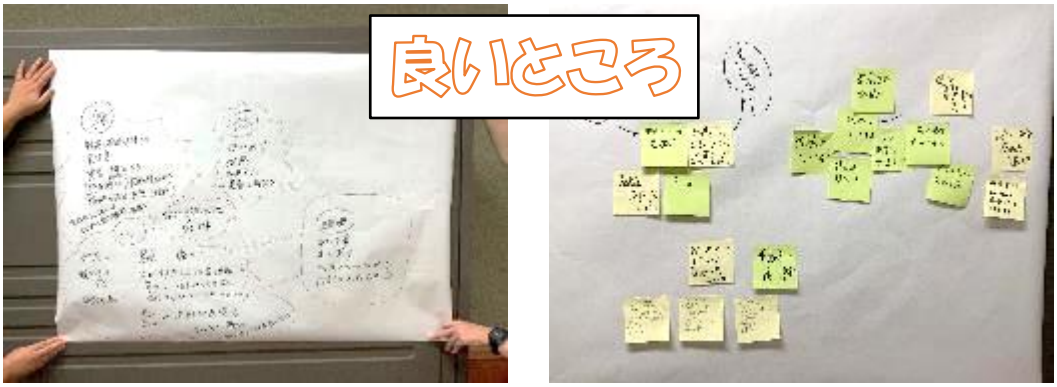
小笠原村立母島小中学校　校内研究　研究主題

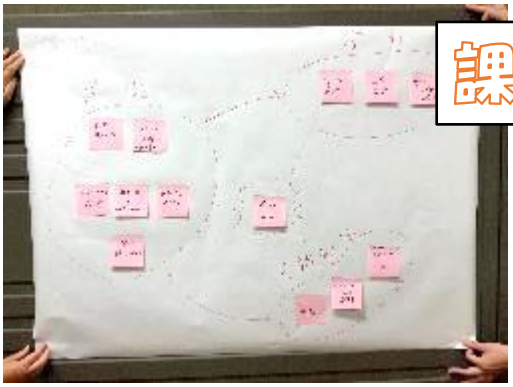
『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』

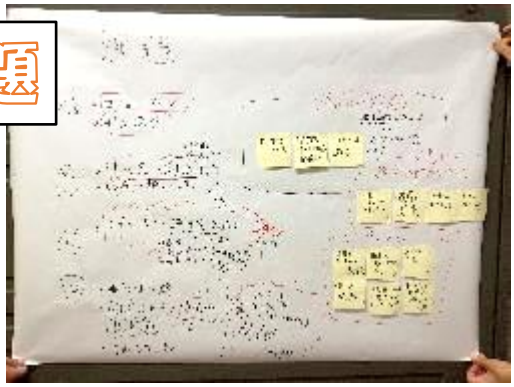
（１）　主題設定の経緯

令和４年度までの校内研究では『基礎学力向上のための，少人数指導の工夫』という研究主題を達成するために母島小中学校の教員全員で研究に取り組んできた。令和４年度では実践女子大学教育研究センター特任教授　中村 一哉 先生に御指導を頂き，令和５年度に向けて，本校の課題把握を行った。

分科会ごとに付箋を使い課題をグループピングし，KJ 法を用いて良いところと課題を明確にした。



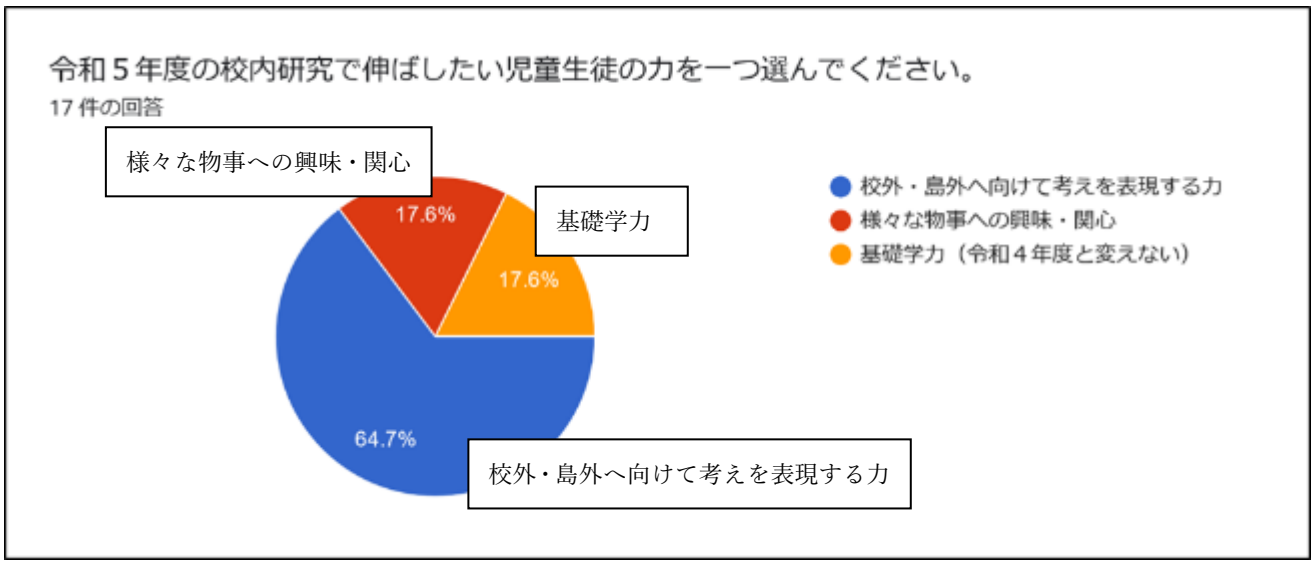




「良いところ」では離島環境の中で育った素直さや学習意欲の高さ，また身体能力の高さなどが挙がった。小学校低学年から中学生まで，誰もが幼馴染で仲良く過ごしている。地域のクラブ活動や行事に限らず日常生活においても年の差をものともせず協力している姿が見られる。また小学校第４学年から学校部活動に参加したり，小中合同で行事を行ったりするなど小中併設校の良さを生かした教育活動を意図的・計画的に設定している。

「課題」では知り合い以外の人とのコミュニケーションについて多くの意見が集まった。本校ではこれまで，離島固有の環境に加えコロナ禍で活動が制限される中，オンラインを用いた出前授業や職場訪問インタビュー等を積極的に行ってきた。しかし，離島という限られた人間関係の中で生活している環境要因から，コミュニケーションの力や人間関係を通した協調性の向上に取り組みの余地があると考えた。

この話し合いの結果を基に，昨年度末（令和４年度３学期）に本校教員にアンケートを実施した。



半数を超える教員から「校外，島外へ向けて考えを表現する力」を伸ばしたいと意見が集まった。母島の環境で大らかに育った明るい児童・生徒の良さを島内・島外に伝えていきたい気持ちの表れである。

この結果を受けて，本研究主題を『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』と設定した。また上記で述べた母島の良さも発信してほしいという願いも込めて，母島小中学校に在籍する児童・生徒を「母島っ子」とし，研究主題で用いた。

（２）　学習指導要領等に明記されている『表現力』について

学習指導要領では以下のように記されている。

育成を目指す資質・能力の明確化

中央教育審議会答申においては，予測困難な社会の変化に主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら，どのような未来を創っていくのか，どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること，こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し，学校教育がしっかりとその強みを発揮できるようにしていくことが必要とされた。また，汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ，知識及び技能と思考力，判断力，表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を，ア「何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得)」，**イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」**，ウ「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵
かん養)」の三つの柱に整理するとともに，各教科等の目標や内容についても，この三つの柱に基づく再整理
を図るよう提言がなされた。(参照：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総則編　P3)

また中央教育審議会による初等中等教育分科会の「資料１　教育課程企画特別分科会　論点整理」において以下のように記されている。

2)「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等)」

問題を発見し，その問題を定義し解決の方向性を決定し，解決方法を探して計画を立て，結果を予測しながら実行し，プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくこと（問題発見・解決）や，情報を他者と共有しながら，対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し，相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして，協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）のために必要な思考力・判断力・表現力等である。

特に，問題発見・解決のプロセスの中で，以下のような思考・判断・表現を行うことができることが重要である。

・問題発見・解決に必要な情報を収集・蓄積するとともに，既存の知識に加え，必要となる新たな知識・技能を獲得し，知識・技能を適切に組み合わせて，それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考。
・必要な情報を選択し，解決の方向性や方法を比較・選択し，結論を決定していくために必要な判断や意思決定。
・伝える相手や状況に応じた表現。

（参照：中央教育審議会　初等中等教育分科会　「資料１　教育課程企画特別部会　論点整理 2. 新しい学習指導要領等が目指す姿」)

以上の事から，本校では学習指導要領で示されている『表現力』は『問題解決において，知識・技能を用いて相手や状況に応じて思考・判断して伝わりやすく表す力』であると考えた。

また中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編には以下のように示されている。

（2）思考力，判断力，表現力等

「思考力，判断力，表現力等」については，第１学年及び第２学年では，各領域に共通して，自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることを示している。また，第３学年では，各領域に共通して，自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることを示している。なお，**ここで示す「表現力」とは，運動の技能に関わる身体表現や表現運動系及びダンス領域における表現とは異なり，思考し判断したことを他者に言葉や文章及び動作などで表現することである。**

（参照：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編）

保健体育科では表現運動系やダンスでの表現，また美術科での作品表現，音楽科での歌唱表現等は技能に当てはまり，ここで扱われている『表現力』とは違うものと解釈した。

（３）　母島小中学校の研究主題の『表現する力』という言葉の定義と設定理由

本校の研究主題『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』で扱われている『表現』は，学習指導要領上で扱われている内容を基に，さらにその範囲を膨らませている。『表現』とはアウトプット全般のことを指し，児童・生徒が文章で記述，発表，説明することや，実用的なものを製作，芸術的なものを創作したり歌や曲，動作で表したりして，相手が見たり聞いたりして考えや思いが伝わるものすべてを『表現』とした。

本校が考える学習活動等における『表現』の具体例は次のとおりである。

・ペア学習での教え合いの中で分かりやすく工夫して説明すること。
・プレゼンテーションの中で資料を使い分かりやすく発表すること。
・レポートの文章に式や図，グラフなどを用いて分かりやすく記述すること。
・自分の意見や考えに対し，他者がどのように考えているのかという意見交換を行うこと。
・実験や実習，グループワークなどの結果について，既習事項をもとに，根拠や理由を明確にしながら論理的に説明したり，発表したりすること。
・他者の作品などを鑑賞しながら教科等に応じた見方や考え方を深めていくために，作品等から感じ取ったよさや美しさについて自分の考えを文章にまとめたり，相互の発表や意見交流をしたり活動すること。
・体育科の表現活動「ダンス」において相手に伝えたい感情を表すこと。
・図工・美術科において絵や立体，映像などに表すこと。
・音楽科の歌唱・器楽・創作・鑑賞分野において，「なぜ，そのように表現しようと思ったのか」を，根拠をもって説明したり発表したりすること。
・技術科においてフローチャートを用いて，プログラムのアルゴリズムを説明すること。
・家庭科において調理実習や布を用いた製作，実践的な活動における計画から実践，振り返りの記録やその製作物のこと。

また，本校で考える『表現力』には上記の学習活動等の例での伝わりやすさを含んでいる。相手に言葉や記述，作品や身体表現などで自分の考えや思いを伝えるために工夫を凝らし，自らのアウトプットで相手にどれだけ分かりやすく伝わるかである。現代ではＳＮＳ等のコミュニケーションツールが現れ，相手に自分の考えや思いを伝える術も会話と手紙だけではなくなった。多種多様な

方法を効果的に活用して，コミュニケーション能力として求められる資質・能力もその内容が大きく変化してきている。この先も多様化する社会で，数年後には新しく必要とされる力が現れてくるはずである。そのときにどのような課題があっても，母島っ子にはその場面において本校で学んで身に付けてきた「表現力」を活用し，自分の考えや思いを表現し，個人や社会の多様性を尊重し，他者と協働して課題を解決して生きていって欲しいという願いが込められている。

３　研究構想図

学校教育目標

母島を誇りに思い，共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し，自ら困難を乗り越え，思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

一，意欲的に学ぶ児童・生徒
一，自らきたえる児童・生徒
一，社会のために尽くす児童・生徒

【めざす児童・生徒像】

基礎的な知識・技能を習得し，
それらを活用して，自ら考え，判断し，表現することにより，
様々な問題に積極的に対応し，解決する力をもった子供

【令和5年度・6年度研究主題】

「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」

・日々の教科の授業を通して
・日々の総合的な学習の時間を通して
・日々の小笠原学習の時間を通して

母島小中学校で育てる『表現する力』

A 分科会　文系教科（国・社・英）

互いの発言を結び付けて考えをまとめるために，話題や展開をとらえながら話し合う力

B 分科会　理系教科（算・数・理）

言葉による表現とともに，図，表，グラフ及び式など数学的な表現を用いて，問題解決に生かしたり，思考の過程や結果を，筋道を立てて表現して説明したりする力

C 分科会　実技教科（図・美・技・家）

他者の表現を分析することで，自分が表現者になった場合に相手に伝わる表現方法に活用できる力

D 分科会　実技教科（音・体）

音声言語や文章，図や動作，タブレット端末などの道具を使い，自分の考えや思いを，他者に対して過不足なく正確に伝達したり，受け取ったりする力

思考力・判断力・表現力

理解していること・できることをどう使うか

４　各分会から（提案・学習指導案・報告）

（１）Ａ分科会

①　分科会提案

（ｉ）分科会メンバー

〇分科会長・中学校英語科担当　〇授業者・中学校国語科担当　〇中学校社会科担当
〇小学校１年生担任　〇小学校２年生担任

（ⅱ）研究授業実施教科等

中学校第１学年　国語科　「話題や展開をとらえて話し合おう」

（ⅲ）分科会による「表現する力」の定義等

ア　定義

「互いの発言を結び付けて考えをまとめるために，話題や展開をとらえながら話し合う力」

イ　定義付けの背景

本校児童・生徒の各種学力調査の結果において，自分の考えや思いはもっているが，言葉を組み立てることや語彙力，相手に伝える力に課題があると分析した。相手や自分の立場，状況に合わせた言葉で共感できるような表現をする力を身に付ける必要があると考えたからである。

（ⅳ）育成を目指す資質・能力を身に付けるための分科会提案

話題や展開をとらえながら話し合う力を高めるためのグループ・ディスカッションの活用

（ｖ）分科会提案の設定理由

小学校での現状や中学校の各種学力調査の結果から「自分の考えや思い」はもっているが，言葉を組み立てることや語彙力に課題があり，相手に伝える力が弱い児童・生徒が一定数存在する。グループ・ディスカッションを用いて，「話題の決定と目的の明確化」「自分の意見と，その根拠のまとめ」「グループでの話合いと，その結果の報告」「話合いのしかたについてよかった点や改善点の振り返り」の場面を設定した話合いの指導を行うことにより，生徒の表現力を向上することができると考える。

② 研究授業学習指導案

中学校　第１学年　国語科　学習指導案

日　時　令和５年 11 月２日(木)
６校時 14：20～15：10
学校名　小笠原村立母島小中学校
対　象　中学校第１学年１組４名
会　場　２階　中学校第１学年教室

母島小中学校研究主題
「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」

１　単元名　「話題や展開をとらえて話し合おう」(国語１　光村図書出版株式会社)

２　単元の目標等

（１）単元の目標
・原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知識及び技能（２）ア)
・話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。（思考力，判断力，表現力等Ａ（１）オ)
・自分の考えや根拠が明確になるように，話の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などに注意して，話の構成を考えることができる。(思考力，判断力，表現力等Ａ（１）イ)
・言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)

（２）本単元における言語活動
・話題や展開をとらえながらグループ・ディスカッションをする。(関連：思考力，判断力，表現力等Ａ（２）イ)

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	①「話すこと・聞くこと」において，話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	①積極的に互いの発言をまとめ，学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。

４　指導観

（１）単元観

学習指導要領（平成 29 年度告示）では，〔知識及び技能〕の内容において「（２）ア　原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」とある。本単元では，自分の考えをまとめる際に，意見に対する根拠を考えることを指導する位置付けがなされている。また，〔思考力，判断力，表現力等〕の内容において「（１）オ　話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめること」とある。本単元では話合いを手段ではなく，目的として考えることを指導する位置付けがなされている。また，「学びに向かう力，人間性等」の目標では，「第１学年（３）言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う」とある。本単元では積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ，グループ・ディスカッションをする活動を，言葉がもつ価値として気付くことに重点を置いて指導する位置付けがなされている。系統性としては，小学校第５学年及び第６学年の「話すこと・聞くこと（２）ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。」において，原因と結果の関係について学習している。中学校においては，第２学年の「ア　意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」と連繋し，第３学年において「ア　具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。」について体系的に理解を深める。

カリキュラムマネジメントの視点では，社会科「アフリカ州の貧困問題を解決しよう」において，グループで発表し合って考えをまとめ，学級で発表する活動を行っている。また，英語科では，授業の毎時間，冒頭５分で自分自身のことについて質問したり答えたりする活動を行っている。その際に，「質問から回答」の一方向の会話で終わるのではなく，相手の受け答えに対して相づちや質問などを行い，会話を継続することに重点を置いて指導している。「総合的な学習の時間」における中学校第１学年のキャリア教育の一環として，職場訪問での訪問先から聞き取った情報をまとめ，自分の意見を発表し合い，職業観についてグループ・ディスカッションをする活動が想定される。職場訪問に向けた事前指導において，本単元の学習を生かして話題や展開をとらえて話し合う認識を深められるように準備を進める。そして，職場訪問の事後学習においては，生徒自身が職場訪問での振り返りを意見と根拠を明確にしてまとめ，社会生活に必要な話合いの在り方について考えを深める指導を行い，第２学年の職場体験活動につなげていく。

（２）生徒観

本校は全学級が少人数学級のため，児童・生徒観の項目は児童・生徒の特定につながる恐れがあります。そのため『（２）生徒観』の項目は学習指導案集において，非掲載とします。

（３）教材観

グループ・ディスカッションを行う際には，話合いの目的を明確にする必要がある。本単元では，「集める・整理する」「組み立てる」「伝え合う」「振り返る」の４つの活動に分かれる。

「集める・整理する」では，「話題」と「目的」とが，具体的に例示されている。生徒は教科書に提示されている「学校図書館の利用を活性化するには」「通学路のごみを減らすには」「音楽のもつ力とは」「部活動の意義とは」「文化祭に向けたクラスの標語」「よい話合いにするための三か条」を参考に学級や学校で話題になっている問題を話し合いたい話題として取り上げ，自分に置き換えて考え、ディスカッションに参加する。「学校図書館の利用を活性化するには」「通学路のごみを減らすには」では

「解決策を探る」ことが話し合う目的であることを確認し，「音楽のもつ力とは」「部活動の意義とは」では「考えを深める」ことが話し合う目的であることを確認する。「文化祭に向けたクラスの標語」「よい話合いにするための三か条」では「決める」ことが話し合う目的であることを確認する。「学校図書館の利用を活性化するには」では「活性化」の意味を共有し，「通学路のごみを減らすには」では「ごみ」の意味を共有する。「音楽がもつ力とは」では，「力」の意味を共有する。「部活動の意義とは」では「意義」の意味を共有する。「文化祭に向けたクラスの標語」では「標語」の意味を共有する。「良い話合いにするための三か条」では「良い話合い」の意味を共有する。以上の目的と言葉の意味とを共有し，何を目指して話し合うのか明確にする。

「組み立てる」では，自分の意見がどのような根拠に基づいているのかを考える。自分の意見を Jamboard に書き出し，それぞれの意見の根拠をまとめる。根拠を明確にしながら話合いを進め，意見と根拠とのつながりが妥当であるかも交流する。

「伝え合う」では，司会と書記を決め，グループ・ディスカッションを行う。話題と目的を全体で確認し，意見を出し合う。出し合った意見を視覚的に整理し，意見と意見とを結び付けて，グループとしての結論をまとめる。話合いの結果を発表し，結論が出なかった場合にも，途中経過を報告し，全体で共有する。

「振り返る」では，話合いの仕方について良い点や改善点を伝え合い，学習を振り返る。結論が出なかった場合にも，途中経過の中での良い点や改善点を共有し，今後の表現活動に生かせるようにしたい。

５　年間指導計画における位置付け

小学校第５学年「見立てる／言葉の意味が分かること／原因と結果」では，原因と結果の結び付きを意識して，話したり，書いたりすることについて確認することを学習している。小学校第６学年「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間／主張と事例」では，筆者の主張と複数の事例との関係に着目して，論の進め方の意図について話し合い，筆者の主張に共感・納得したり，疑問に思ったりしたことを，自分の体験と重ね合わせて，自分の考えを発表し合う活動を行っている。中学校第１学年「聞き上手になろう」では，音声の働きや仕組みを踏まえて，記録したり質問したりしながら話の内容をとらえ，自分の考えをまとめることを学習している。また中学校第２学年「立場を尊重して話し合おう」では，異なる立場を想定して討論を行い，互いの立場を尊重しながら話し合うことを学習する。中学校第３学年「合意形成に向けて話し合おう」では，グループでブレーンストーミングの活動で意見を出し合いながら具体的な提案をまとめ，全体会議で粘り強く合意形成に取り組むことを学習する。

６　単元の指導計画と評価計画（全４時間）

時	目標	○学習内容☆表現活動	評価規準（評価方法）
第１時	「中学校１年生が出しそうな課題」のような話合いの話題を決め，「学校図書館の利用を活性化するには」「通学路のごみを減	○話合いの効果や難しさについて考える。 ☆クラスで話合いの話題を決める。	ウー①（ノートの記述）

	らすには」「音楽のもつ力とは」「部活動の意義とは」「文化祭に向けたクラスの標語」「よい話合いにするための三か条」の話題の例を参考に自分達の話合いの話題を決め，「解決策を探る」「考えを深める」「決める」を明確にすることができる。	○話題に使われている言葉の意味を共有し，目的を明確にする。 ○学習を振り返り，話合いの進め方や発言の仕方で気付いたことや考えたことを書く。	
第２時	意見と根拠を明確にして，自分の考えをまとめることができる。	○話題について，自分の意見をJamboardに書き出す。 ○書き出した意見の根拠を考え，話合いで説明できるように書き出す。	アー①（ノートの記述）
第３時（本時）	司会と書記を決め，グループで話し合い，結論をまとめることができる。	○話合いの話題や目的を確認する。 ☆グループで司会と書記を決める。 ☆グループで意見を出し合う。 ☆グループで意見について質問し合い，整理した意見をJamboardに書き込む。 ☆意見を結び付けて，結論をまとめる。	イー①（行動観察）
第４時	話合いの結果を報告し，学習を振り返ることができる。	○報告会の目的を確認する。 ○結論を報告する例を視聴し，報告の仕方について考える。 ○グループの結論を報告する。 ○学習全体の振り返りをする。	アー①（ノートの記述）

７　研究主題に迫るための手だて

Ａ分科会では,「表現する力」の定義を「互いの発言を結び付けて考えをまとめるために，話題や展開をとらえながら話し合う力」とした。これは,研究主題「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」の定義において，小学校での現状や中学校の各種学力調査の結果から「自分の考えや思い」はもっているが，言葉を組み立てることや語彙力に課題があり，相手に伝える力が弱いと分科会として判断したためである。相手に伝える力を身に付けるためには，相手や立場に合わせた言葉で，相手の立場に立ち，共感や共有できるような言葉で表現できることが必要ではないかと考えた。

分科会の考える「表現する力」を身に付ける授業を実践するため，グループ・ディスカッションを用いて話合いの指導を行う。グループ・ディスカッションを用いる際に自分の意見と，その根拠をまとめる方法を工夫し，自分の意見を Jamboard に書き出して視覚的に指導する。話合いの目的・流れ・工夫を意識してグループ・ディスカッションを行えば，生徒の表現力を高めることができるのではないかと本分科会では考えた。話合いでは，まず話題と目的を確認し，根拠を明確にして意見を出し合う。次に，前の人の意見を受けて自分の意見と比較しながら聞き合い，今，話合いはどこに向かっているのか意識しながら意見を出し合う。最後に，出し合った意見を整理し，意見と意見とを結び付けて結論をまとめる。「話題の決定と目的の明確化」「自分の意見と，その根拠のまとめ」「グループでの話合いと，その結果の報告」「話合いの仕方について，良かった点や改善点の振り返り」の場面を設定して指導する。

指導内容では，自分の考えをまとめる「組み立てる」活動と，グループで話し合う「伝え合う」活動の２つが中心となる。１つ目は「組み立てる」の活動で自分の意見が，どのような根拠に基づいているのかを考えさせる。根拠を明確にしながら話合いを進めることで，提案の是非を論理的に検討し，皆が納得する結論を導き出すことにつながる。２つ目は,「伝え合う」の活動で話題や展開をとらえて話し合うために，発言する時には，自分の立場や意見の立ち位置，前の発言との関係性を明確にできるように指導する。学習形態では自分の考えと他者の考えとを共有する時間を設定し，生徒自身がよりよい話合いに対する認識を形成できるようにする。授業力の６要素については，本単元で特に求められる話題や展開をとらえながら話合いを進めることの工夫を中心として位置付け,「十分に議論する」提案と「論理的に話し合う」提案に分類する場面を設けることで，よりよい話合いに対する理解を深めることができるようにする。

８　本時（全４時間中の第３時）

（１）　本時の目標

・グループで話し合い，結論をまとめることができる。

（２）　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動 ☆表現活動	・指導上の留意点 △配慮事項	□評価規準 (評価方法)
導入 ５分	○既習事項を確認し，本時の目標を把握する。	・黒板に本時の目標を明示し，見通しがもてるようにする。	
グループで話し合い，結論をまとめることができる。			

		・司会の役割や意見の述べ方，話合いの展開をとらえて発言することの重要性を押さえる。	
展開 35 分	○グループでの役割を確認する。 ・話題に沿って意見を出し合う。 ☆グループで意見を質問し合い，よく吟味して整理する。 ○意見を結び付けて結論をまとめる。	・グループの話題と目的を確認したうえで意見を出し合う活動を行う。 ・意見を Jamboard で可視化し，関係を考えやすくする。 ・意見を１つずつ取り上げ，根拠や意図を質問し合う。新たな意見が出れば付箋を増やす。 ・話合いの目的を確認し，それぞれの意見の良いところを合わせて結論を出す。意見が対立したり，結論が出なかったりした時には，意見の根底にある思いを理解し合い，意見を抽象化してまとめる活動を行う。	□イ－①（行動観察） A：話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えを工夫してまとめている。 B：話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 C：話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめられない。
まとめ 10 分	○学習全体の振り返りをする。	・話合いを記録した Jamboard を見ながら振り返る活動を行う。話合いの進め方や発言の仕方で気付いたことや考えたことを基に，よりよく話し合うためのスキルや意識のもち方を自分で発見し，言語化する活動を行う。	

（３）本時の評価規準に応じた支援

	A評価	B評価	C評価
評価規準	「話すこと・聞くこと」において，話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えを工夫してまとめている。	「話すこと・聞くこと」において，話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	「話すこと・聞くこと」において，話題や展開をとらえながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめられない。
生徒への具体的な支援		話合いの目的に合うものを選んだり，それぞれの意見を合わせたりして結論に導くことができるように支援する場面を設定する。	出そろった意見を参加者全員で理解する場面を設定する。

（４） 板書計画

十一月二日（木）
話題や展開をとらえて話し合おう

目標
グループで話し合い，結論をまとめることができる。

聞き方の工夫
①相づち
②繰り返し
③引用
④言い換え

質問の種類
①絞る質問
②広げる質問

（５）ＩＣＴ機器の活用

（１）活用機器	タブレット端末：Chromebook
（２）使用ソフトウェア	ソフト名：Jamboard グループ・ディスカッションの例④（ＱＲコード）
（３）活用した学習場面	グループ・ディスカッションでの意見共有。

（６） 授業観察の視点

・グループ・ディスカッションを用いた話合い活動において，Jamboard を使って意見を出し合う指導方法が有効であったか。

・グループ・ディスカッションを用いた指導内容について，目的・流れ・工夫を意識した指導内容が有効であったか。

③　分科会報告（研究協議会、指導・講評を受けた振り返り）

（ｉ）　授業者による研究授業の自評

・「話題や展開を捉えて」という部分は授業者の支援により，意識して話し合うことができた。

・「互いの発言を結び付けて」という部分は，自分の立場や意見の立ち位置を踏まえた展開に課題が残った。

（ⅱ）　研究授業後に参観者から得られた意見や評価

ア　実践女子大学大学教育研究センター特任教授　中村一哉　先生による指導と講評

・「伝えるスキル」は大切だが，スキルのみで「表現力」を高めることは難しい。
→伝えたいという思い（意欲・動機）を形成していくための手だてが重要である。

・研究の成果検証を説得力のあるものにするために，児童・生徒の現状と変容を把握するための手だてが必要である。
→学習の発展の視点に立ち，単元の連続性の中で検証することが重要である。

イ　参観者からの意見や評価等

【Jamboardを使って意見を出し合う指導方法の有効性について】

質問①タブレット活用として、ジャムボードで生徒の意見を見える化して得た利点を聞きたい。

回答①相手の意見との共通点を視覚的に理解し、容易に移動できるという利点があると考えます。

【目的・流れ・工夫を意識した指導内容の有効性について】

質問②目的「考えを深める」とは、話合い後具体的にどのような姿になってれば達成できていたと考えますか。

回答②単元指導計画の第４時において、「共通する意見をまとめることができた」のように、話し方について振り返る発言・記述が見られれば達成できていたと考えます。

質問③本時の生徒は「展開をとらえながら」話し合うことができていましたか。もし「展開をとらえる」ことができていたのであれば、具体的にそれはどのような場面ですか。

回答③「Aさんは～と言っていましたが、それはBさんの…という発言と同じ意見だと思います」と発言していた生徒１名が、「展開をとらえながら」話し合うことができていたと考えます。

質問④目的・工夫は意識することができていたが、それはグループディスカッションによるものではないと思います。目的はジャムボード内の記述、工夫は板書によって意識することができていたと感じます。　☞続く

続き☞　具体的にグループディスカッションのどのような要素が、目的・流れ・工夫を意識することにつなげることができるとお考えでしょうか。

回答④ジャムボードを見て、話合いの目的を共有したり、話を広げたりといった役割を司会が担う必要があると考えます。また、他の生徒も司会のそうした役割を認識した上で話し合いに参加する必要がある考えます。

質問⑤本日の授業では、全員がB評価になるように感じた。A評価になるような「工夫してまとめる」ことができるための手立てとして何を考えていたのか知りたい。

回答⑤「２つの意見の共通の部分はどこか」「相手の意見に同意する場合、それを自分の言葉で言い換えるとどうなるか」など、教師による発問のはたらきかけを想定していました。

（ⅲ）　上記を踏まえた成果と課題

ア　成果

・本時の授業でまとめた結果を次時の報告する活動において，それぞれの意見や共通点や相違点に着目して整理しながら報告することができた。（中学校・国語科）

・「こんなものみつけたよ」「わけをはなそう」「すきなもの，なあに」の単元で，身近にあるものや自分自身のことを相手に伝えるやり方を学んだ。身近な事や自分自身のことを伝える目

的で，話型を使って話し方を知り，友達の発表を聞いて，まねしてみるなど内容を少しずつ豊かにすることができた。（小学校・国語科）

・「そうだんにのってください」の単元において，話し合いの仕方を学習し，クラスで相談会をした。話し合いの際には，お互いの考えのよいところを見つけ合いながら話し合いを進めることができた。また，相談者（発表者）は，話し合いのまとめとして相手から出た良い意見を選び，結論を発表することができた。（小学校・国語科）

・中学校第２学年の歴史的分野において，近世・江戸の四大改革を評価する活動を行った。学習の展開として Jamboard 上に張り付けた改革成功度をはかる座標軸に，①個人の考えを付箋に記入し，図上に置く（クラス共通のボードを使用）　②「級友の考え」「同じ学習活動を行った現中３・現高１の生徒の考え（紙で配布）」を参照し，自らの考えを深め，どの改革が最も幕府にとって効果的であったのかを文章（長文）として記述する課題に取り組んだ。当初の自らの考えに加え，他者の考えを取り入れながら記述ができた。また，他者の考えを受容しながらも，自らの考えを更に強くした生徒もいた。この一連の作業に Jamboard が有効であった。（中学校・社会科）

・中学校２年生の「防災バッグの中身を決めよう」において，自身の命を守るという目的を「伝える」動機として，教室に置く防災バッグの中身を２人組で相談して決めるという活動を行った。既習事項を取り入れた話型を提示することによって，防災バッグに必要な中身とその理由を伝え合いながら，最終的にバッグの中身を決めることができた。（中学校・英語科）

イ　課題

・話合いの結果を報告する際に，結論まで報告することができたが，結論を出す時の複数の意見を結び付ける活動に対して意識を養うことに課題が残った。第２学年や第３学年の活動では，意図的に結論が出なかった場合の場面設定を実践していきたい。（中学校・国語科）

・授業以外の朝の会や帰りの会で学んだことを使って楽しかったことなどを発表したり，もっと知りたいことを質問したりする機会をつくり，話すことや聞くことに慣れる活動を続けている。（小学校第１学年）

・発表の際に，原稿を見て自分の考えを発表することはできるが，その後のやり取りまでは自分たちで行うことができなかった。今後は，発表者に対して質問をしたり，質問に対して答えたりする活動を多くの授業で取り入れるようにしていく。（小学校２年）

・記述の内容に他者の視点を反映できていない生徒がいた。課題が出されてから提出するまでの期間内に個別指導（声掛け・確認）を行うことが有効であると思う。さらには，よりよい記述をするための自己調整作業を習慣化することも必要になる。また，小単元ごとにこのような表現活動を実施しているため，次回の活動を実施する前に，前回の活動を個別にフィードバックするなどの振り返り活動を実施していく。（中学校・社会科）

・相手へ「伝える」意識を十分にもてず，単に用意した原稿を読み上げる活動となってしまう様子が見られた。「表現する力」に関する変容を見とるために，「話すこと」[やり取り]を中心とした活動を行う授業の終末に，①話す目的を意識できたか②相手の発言に対してリアクションや質問で返答できたか③相手の質問に対して伝わるように返答できたか，の項目を含む振り返りを実施していく。（中学校・英語科）

ⅳ　分科会の活動記録

日程	活動記録
6月1日（木）	・各教科・学年における「表現する力」に関する課題の把握・共有 ・Ａ分科会における「表現する力」の定義の検討
7月5日（水）	・分科会提案の検討
9月9日（土）	・指導案作成に関する進捗の共有 ・研究主題に迫るための手だての検討 ・授業観察の視点の検討 ・第２回研究全体会における８月中間報告で挙がった質問に対する回答の検討
11月27日（月）	・研究協議会で挙がった質問に対する回答の検討 ・各分科会員の実践の共有 ・分科会報告作成の分担

※上記は主な事項である。この他に，日常的にチャットツール等オンラインを活用した意見交換を進めた。

（２）Ｂ分科会

① 分科会提案

（ｉ）分科会メンバー

〇分科会長・中学校数学科担当　　〇授業者・小学校４年生担任

〇中学校理科担当　　〇小学校６年生担任

（ⅱ）研究授業実施教科等

小学校第４学年　算数科　「面積」

（ⅲ）分科会による「表現する力」の定義等

ア　定義

「言葉による表現とともに，図，表，グラフ及び式など数学的な表現を用いて，問題解決に生かしたり，思考の過程や結果を，筋道を立てて表現して説明したりする力」

イ　定義付けの背景

「自分の考えや思い」も相手に伝えられるよう「表現する力」を身に付けていくためには，大前提として数学の基礎的な知識や技能があり，伝えなくてはいけない内容を専門的な用語を正しく扱い説明できなくてはいけないと考えた。そのためには教科の特性として理系教科では文章だけでなく，図，式，表，グラフを用いて表現する必要がある。しかし現状況として児童・生徒が指示語や日常会話で使う用語のみで説明したり表現したりする場面が多くみられる。教科の授業を通して児童・生徒が図，式，表，グラフを用いて筋道を立てて表現したり説明したりする力を伸ばしたいため，このように設定した。

（ⅳ）育成を目指す資質・能力を身に付けるための分科会提案

（１）図や式を関連させて自分の考えを伝える力を高めるためのワークシートの活用

（２）筋道を立てて伝える力を高めるための「話型」の活用

（ｖ）分科会提案の設定理由

本分科会では，本単元を指導するにあたって，レディネステストを実施した（令和５年７月 11 日）。レディネステストの結果から，本学級の児童は問題や図の意図を読み取る力に課題があることが分かった。また，同時に実施した算数に関する意識についてのアンケート調査の結果では「５ 式を使って説明できる」と「６ 図を使って説明できる」の項目を比較すると，肯定的な回答をした児童が前者で６名，後者で３名と差が出た。したがって，図もうまく活用し，図や式を関連させて伝える力を育んでいく必要があると考えた。

そこで，本分科会では，以下のような手だてを提案する。

・自力解決の際に，児童が図に自由にかき込むことのできるＡ３サイズのワークシートを活用する。ワークシートの下部には式や言葉を書くことができるようにして，児童が図と式を関連させて考えることができるようにする。また，発表の際には，児童のかいたワークシートを黒板に掲示する。掲示したワークシートの図を示しながら発表することで，考え方や式と図を関連させながら伝える力が向上すると考える。

・２学期当初より，本分科会では発表の際に使うことのできる話型を教室に掲示したり，ワークシ

ートに記載して配布やＩＣＴ機器で投影したりしている。児童が発表する際にはこの掲示物を活用し，「まず」「次に」「最後に」などといった表現を用いながら，算数・数学や理科などの教科の専用用語を正しく用いることを促す。こうした表現を日常的に意識することで，児童には筋道を立てて伝える力が定着すると考える。

② 研究授業学習指導案

小学校　第４学年　算数科　学習指導案

日　時　令和５年 11 月 14 日(火)
５校時 13：20～14:05
学校名　小笠原村立母島小中学校
対　象　小学校第４学年１組６名
会　場　１階小学校第４学年教室

母島小中学校研究主題
「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」

１　単元名

面積　教育出版「小学算数　４下」

２　単元の目標

平面図形の面積，及び公式についての考え方を理解し，長方形や正方形の面積の求め方を考える力を身に付ける。また，その過程を振り返り，面積の単位と計算による求め方のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①面積の意味，面積の比べ方，面積の単位「㎠」を理解している。 ②面積の単位「㎠」を用いて面積を表すことができる。 ③長方形と正方形の面積の公式を使うことができる。 ④面積の単位「㎡」と単位間の関係を理解している。 ⑤長方形の面積の公式を用いて，面積と１辺の長さから，もう１辺の長さを求めることができる。 ⑥面積の単位「㎢」と単位間の関係を理解している。	①長方形の面積の求め方を図や式を用いて考えている。 ②辺の長さの単位がそろっていない長方形の面積の求め方を考えている。 ③複合図形の面積を面積の公式を使って求めている。	①正方形の１辺の長さが 10 倍になると，その面積は 100 倍になること，面積の単位「a，ha」の単位の関係を説明しようとしている。 ②長さの単位と面積の単位の関係をまとめ，説明しようとしている。 ③学習内容の理解を確認し，確実に身に付けようとしている。

４　指導観

（１）単元観

学習指導要領解説には，本単元に関する内容として，下のように記されている。

> (4) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
>
> ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
>
> （ア）　面積の単位（平方センチメートル（㎠），平方メートル（㎡），平方キロメートル（㎢））について知ること。
>
> （イ）　正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。
>
> イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
>
> （ア）　面積の単位や図形を構成する要素に着目し，図形の面積の求め方を考えるとともに，面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

本単元の主なねらいは，第１学年における広さの学習や長さ，かさ，重さなど，量の比較や測定の経験を踏まえ，正方形や長方形といった図形の面積について，単位と測定の意味を理解し，面積の単位や図形を構成する要素に着目して面積の求め方について考え，それらを用いることができるようにすることである。第４学年の面積の学習においては，図形の中でも特に，正方形や長方形の面積の求め方を考えるとともに，面積の求め方を振り返り，効率的・能率的な求め方を探求し，公式として導き，導いた公式を活用する資質・能力が育成されることが大切である。さらには，面積の単位間の関係についても振り返り，面積の大きさを実感をもって理解できるようにすることも大切である。

長方形の面積を求めるには，面積の意味を考えれば，単位の正方形を敷き詰めてその個数を求めればよい。単位正方形が規則正しく並んでいるので，乗法を用いると，手際よく個数を求めることができる。このとき縦や横の長さを，１㎝を単位として測っておけば，その数値について（縦）×（横）（又は（横）×（縦））の計算をした結果が，１㎠を単位とした大きさとして表されることになる。このことより，（長方形の面積）＝（縦）×（横）（又は（横）×（縦））という公式について理解できるようにする。

また，正方形や長方形を組み合わせた図形の面積を求める際には，既習の正方形や長方形の求積公式を活用することで求めることができるようにする。複合図形の面積の求め方を考え，考え方を伝え合う活動を通して，児童は，様々な考え方の中でいつでも使える考え方もあれば，簡単な考え方ではあるが特定の場合にしか使えない考え方があることに気付いていくことができる。またこのようなことが理解できるのは，式と図をつなげて説明し合ったからだということも確認できる。

このような数学的活動を通して，面積を求める際のポイントである図形の見方・考え方が豊かになっていくことで，第５学年以降の学習につなげていく。

（２）児童観

本校は全学級が少人数学級のため，児童・生徒観の項目は児童・生徒の特定につながる恐れがあります。そのため『（２）児童観』の項目は学習指導案集において，非掲載とします

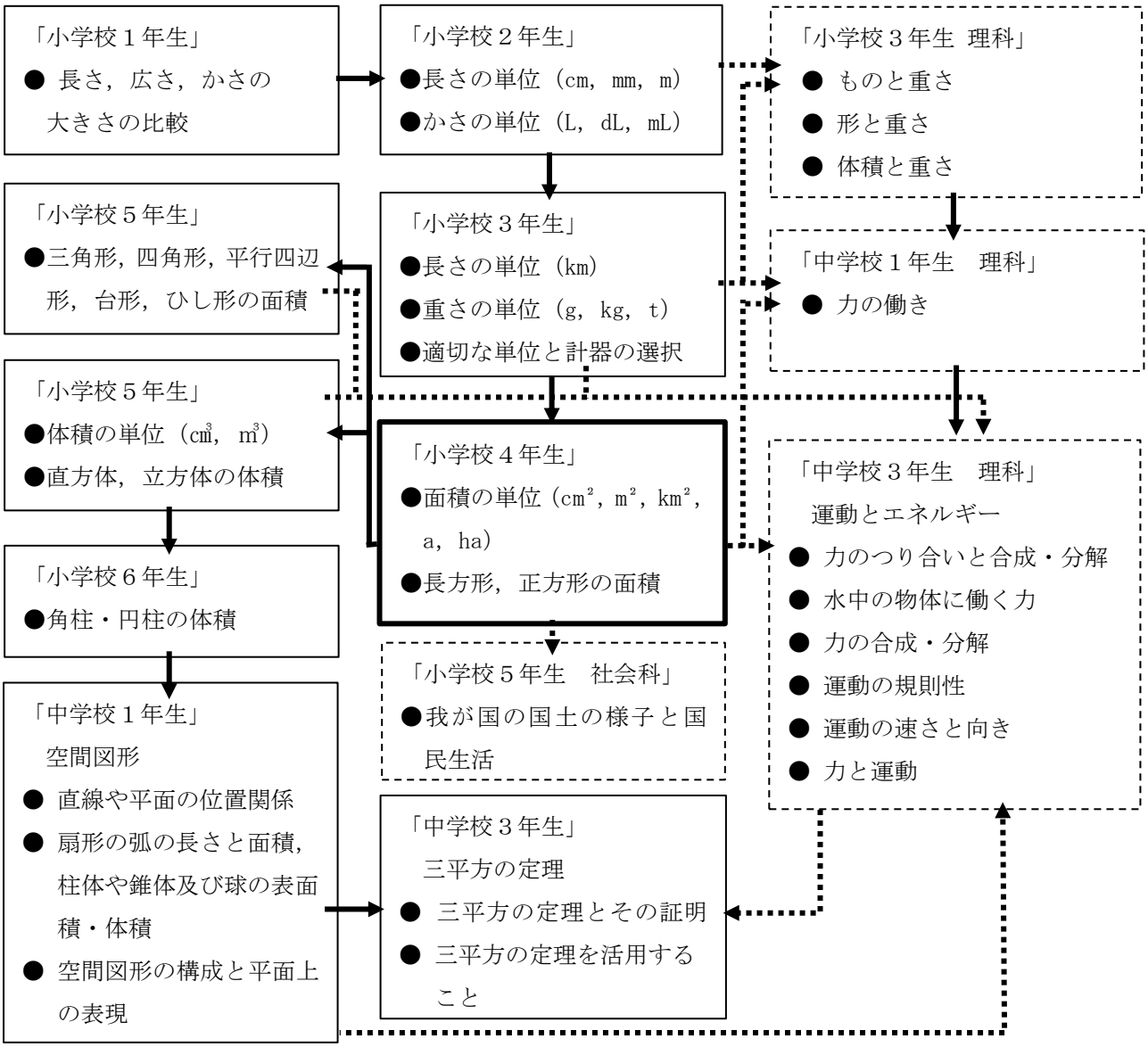
（３）教材観

あらかじめマス目，および図形が印刷されたワークシートを使用する。前述したとおり，図を使って考えたり説明したりすることに対して苦手意識をもっている児童が多い傾向がみられる。したがっ

て今後の学習の中で図を使って説明する機会も増やしていくことが重要と考える。本時においては，その段階的な習熟の手立てとして補助線を正しくかき，説明に用いることを目的とする。

また，発表する際の足がかりとして話型の例を掲示する。順序だてて筋道を踏まえ，自分の言葉で説明することにも苦手意識をもっている様子が見られる。児童が自らの考え方を説明することに注力するための手だてとしたい。

５　年間指導計画における位置付け



６　単元の指導計画と評価計画（全 12 時間）

時	目標	○学習内容　☆表現活動	評価規準（評価方法）
第１時	面積の意味，面積の比べ方，面積の単位「㎠」を理解する。	○長方形と正方形の広さを比べることを通して，面積の比較・測定のしかたや意味について考える。	アー①（ノートの記述）
第２時	面積の単位「㎠」を用いて面積を表すことができる。	○面積の意味について長さやかさなどの場合をもとにして考えるとともに，長方形や正方形の面積の求め方を見いだして表す。	アー②（ノートの記述）
第３時	長方形の面積の求め方を図や式を用いて考えることができる。	○長方形の面積を自分の考え方で求める。 ☆班活動を通して，自分の考えを相手に伝える。	イー①（ホワイトボードの記述・話し合い活動）
第４時	長方形と正方形の面積の公式を使うことができる。	○長方形，正方形の面積を，計算を使って求め，公式にまとめる。	アー③（ノートの記述）
第５時	面積の単位「㎡」と単位の関係を理解する。	○問題を通して「㎡」と「㎠」の違いを学習し，単位について理解する。	アー④（ノートの記述）
第６時	辺の長さの単位がそろっていない長方形の面積の求め方を考えることができる。	○誤答の問題から間違いを見付けることを通して，辺の長さの単位をそろえる必要性に気付く。 ☆発表を通して，自分の考えを相手に伝える。	イー②（ワークシートの記述）
第７時	長方形の面積公式を用いて，面積と１辺の長さから，もう１辺の長さを求めることができる。	○公式の学習をもとにして，面積から辺の長さを求める。	アー⑤（ノートの記述）
第８時	面積の単位「㎢」と単位の関係を理解する。	○問題を通して「㎢」と「㎡」の違いを学習し，単位について理解する。	アー⑥（ノートの記述）
第９時	正方形の１辺の長さが 10 倍になると，その面積は 100 倍になること，面積の単位「a，ha」の単位の関係を説明できる。	○対応表を用いて，自分の考えを整理し，伝えようとしている。 ☆作成した対応表を用いて，面積の変化の仕方や単位について説明する。	ウー①（ワークシートの記述）

第10時	長さの単位と面積の単位の関係をまとめ，説明できる。	○対応表を用いて，自分の考えを整理し，伝える。 ☆作成した対応表を用いて，面積の単位についてまとめたことを説明する。	ウ－②（ワークシートの記述）
第11時（本時）	複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができる。	○長方形を組み合わせた形の面積の求め方を，いろいろな方法で考える。 ☆考えた求め方を図や式，言葉などを用いて説明する。	イ－③（ワークシートの記述）
第12時	学習内容の理解を確認し，確実に身に付ける。	○面積の学習を振り返り，問題演習を行う。	ウ－③（ワークシートの記述）

7　研究主題に迫るための手だて

（１）図や式を関連させて自分の考えを伝える力を高めるためのワークシートの活用

自力解決の際に，児童が図に自由にかき込むことのできるＡ３サイズのワークシートを活用する。ワークシートの下部には式や言葉を書くことができるようにして，児童が図と式を関連させて考えることができるようにする。また，発表の際には，児童のかいたワークシートを黒板に掲示する。掲示したワークシートの図を示しながら発表することで，考え方や式と図を関連させながら伝える力が向上すると考える。また本時では紙のワークシートで実施しているが単元や児童の実態に合わせ，紙ではなくＩＣＴ機器を使用し，図と式を関連させて考えることができるように指導している。

（２）筋道を立てて伝える力を高めるための「話型」の活用

２学期当初より，本学級では発表の際に使うことのできる話型を教室に掲示している。児童が発表する際にはこの掲示物を活用し，「まず」「次に」「最後に」などといった表現を用いることを促す。こうした表現を活用することを日常的に意識することで，児童には筋道を立てて伝える力が定着すると考える。また算数の授業では用語を正しく扱い，「話型」に沿って説明する際に用いるよう指導している。

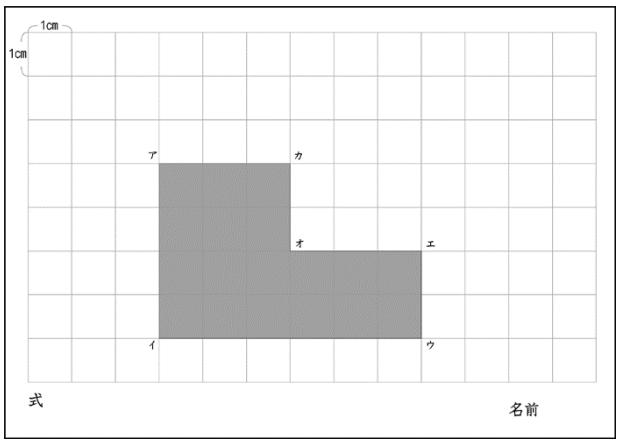
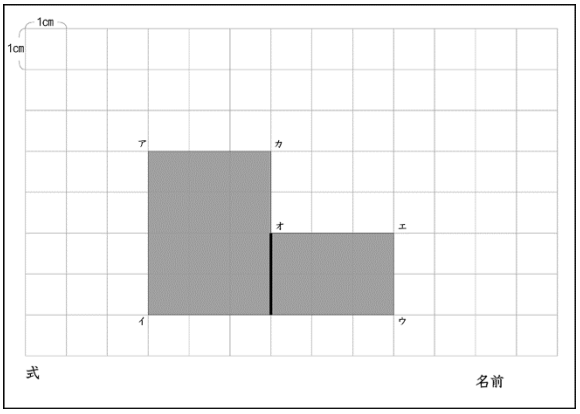
8　本時（全12時間中の第11時）

（１）本時の目標

複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができる。

（２）本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動　☆表現活動	・指導上の留意点　△配慮事項 □評価規準（評価方法）
導入 ５分	１課題把握 ○本時の問題を把握し，解決の見通しをもつ。 Ｔ１：今日は面積を求めます。形を見てみましょう。	・既習である正方形，長方形の面積の求め方を振り返るとともに，掲示しておく。 ・問題の図形は板書と共にディスプレイにも投影する。

	 問　題 面積を求めましょう。 １マスの１辺の長さは １cm とします。 Ｔ２：今日は，どんなめあてになりますか。 めあて この形の面積の求め方を考えよう。	・１マスは１辺が１cmであり面積は１cm²であることを明示すると共に口頭でも説明する。 ・児童とのやり取りを通して，めあてを作る。
展開 30 分	２自力解決（15 分） ☆提示した形の面積の求め方を考えワークシートにかき込む。 Ｔ３：今まで学習したことを使って，いくつか求め方を考えましょう。速くて，簡単で，正確な方法がいいですね。  Ｃ１：４×３＝12	・ワークシート：図形とマスが印刷されたＡ３用紙。自分の考えを鉛筆（式と答え），赤鉛筆（補助線），青鉛筆（その他）を用いてかき込む。 □イー③（ワークシートの記述） Ａ：複合図形の面積を面積の公式を使って求めるとともに，複数の自分の考えを，図を活用し表現することができる。 Ｂ：複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができる。 →机間指導による声かけ Ｃ：複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができない。

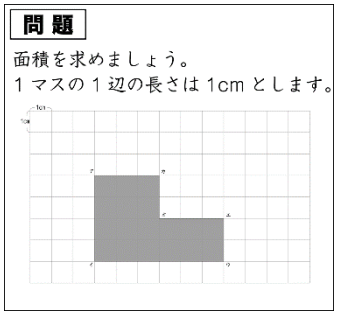
	２×３＝６ 12＋６＝18 二つの長方形の面積を合わせました。 面積は 18 ㎠です。 その他の式（別葉参照） ３比較検討 ○ワークシートのグルーピングを黒板上で行う。 ☆それぞれの面積の求め方を発表し，相違点や共通点について検討する。 Ｔ４：それぞれの方法で，違うところ同じところはありますか。 Ｃ２：分けたり，切って移動させたりしている。 Ｃ３：全体から欠けた部分を引いている。 Ｃ４：同じ形を増やしてまとめて計算している。 Ｔ５：どの方法にも共通していることは何ですか。 Ｃ５：長方形にしている。 Ｃ６：面積の公式が使えるから長方形にする。	→机間指導による声かけ ヒントカード △マスの個数を数えて面積を出した場合は，他の方法も考えてみるよう促す。 ・ワークシートのグルーピングは，児童の考えを聞きながら，教師がワークシートを移動させて行う。
まとめ 10 分	４まとめ ○本時のまとめをする。 まとめ 長方形にして公式を使えば，面積を求めることができる。 ○学習感想 ・スプレッドシートで本時の自己評価を記入する。	・児童とのやり取りを通して，まとめる。

（３）本時の評価規準に応じた支援

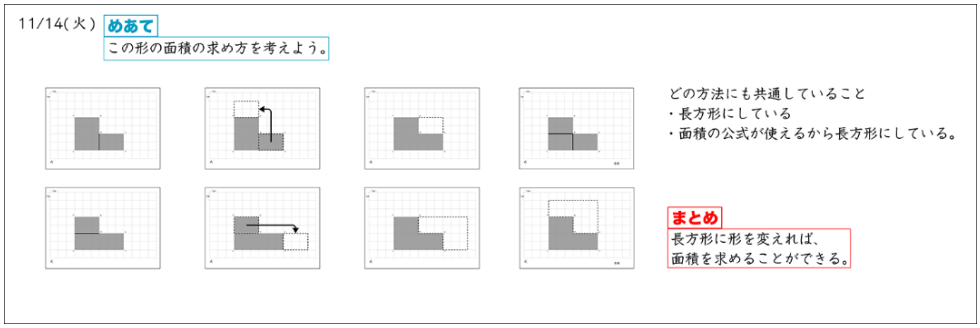
	A評価	B評価	C評価
評価規準	複合図形の面積を面積の公式を使って求めるとともに，複数の自分の考えを，図を活用し表現することができる。	複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができる。	複合図形の面積を面積の公式を使って求めることができない。
児童への具体的な支援		・机間指導による声かけ	・机間指導による声かけ ・ヒントカード

（４）板書計画

ＴＶ



黒板



（５）ＩＣＴ機器の活用

（１）活用機器	①テレビモニタ ②タブレット端末：Chromebook
（２）使用ソフトウェア	②ソフト名：スプレッドシート
（３）活用した学習場面	①問題の提示 ②授業後の自己評価

（６）授業観察の視点

① 本時は，図や式を関連させて伝える力を向上させることにつながったか。

② 「話型」を活用することによって，筋道を立てて伝える力を向上させることにつながったか。

③ 終末段階にスプレッドシートでの振り返りを行い蓄積することによって，反省と次回への意欲向上につながっているか。

③　分科会報告（研究協議会、指導・講評を受けた振り返り）

（ｉ）授業者による研究授業の自評

・児童は研究授業の雰囲気を感じ取っている様子ではあったが，話型を使っての発言，発表用紙への書き込みなど，活発に行うことができた。

・校外学習の後でも集中して頑張っていた。

・いつもより多様な考えが出ていた。

（ⅱ）研究授業後に参観者から得られた意見や評価

ア　実践女子大学大学教育研究センター特任教授　中村一哉　先生による指導と講評

・児童の課題が絞られてきていて，授業実践に生きてきているなと感じた。

・数学的活動を通して，児童の見方・考え方を育成できるようにしていく必要がある。

・日常生活と数学の問題を関連付けて授業を行っていくことが大切になっていく。

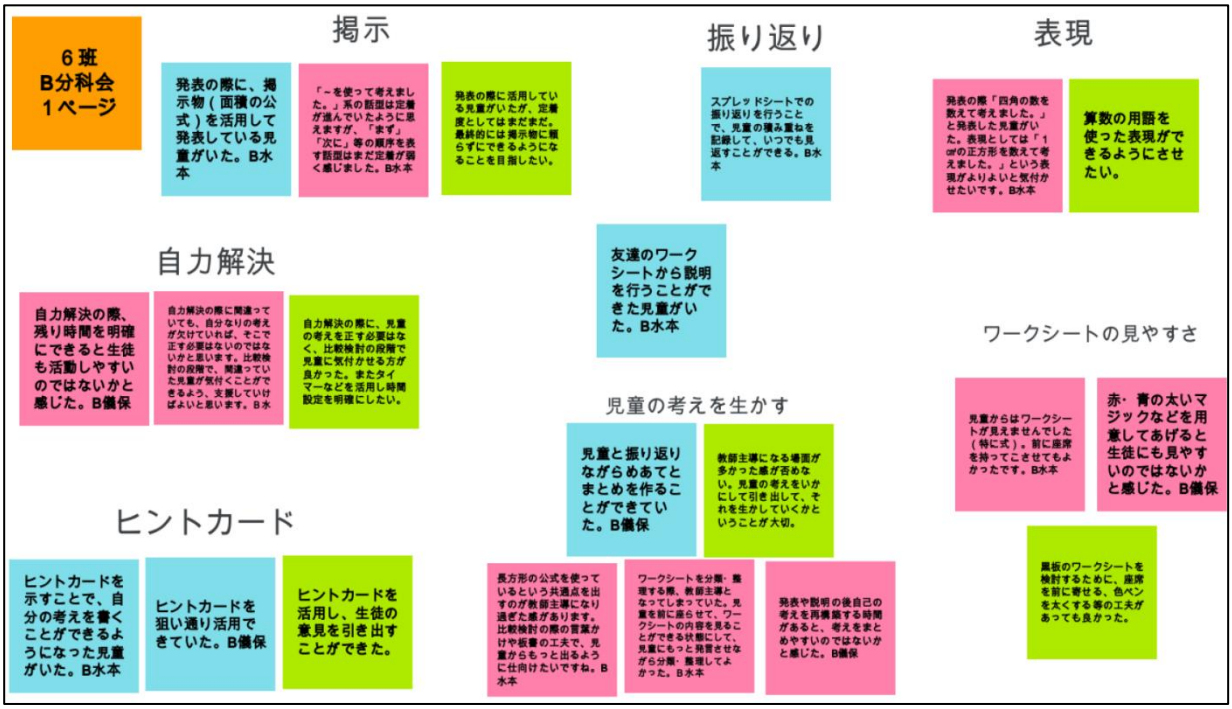
・今の授業実践を今後の子供たちのどこに生かしていきたいのかを具体的にイメージして研究を進めていけるとよいと感じた。

・思考を豊かにする「話型」の活用について。学年に応じた話型を提示することで自然に表現できるようになっていく。提示するタイミングが大事。

・授業のめあてやねらいをしっかり子供と共有できていれば，具体的に振り返ることができると思う。

・母島の恵まれた環境を生かして研究を進めていけると子供たちの飛躍が期待できると感じた。

イ　参観者からの意見や評価等



「授業観察の視点」に沿って各分科会がまとめた成果と課題は以下のようになった。

視点① 本時は，図や式を関連させて伝える力を向上させることにつながったか。

〈成果〉

・本時はまさに，伝える力を高めるのにふさわしい授業だった。児童が「これ」という発言の時も，「長方形」と言い換えるなど，学習用語が意識されていてよかった。

・図や式だけをかくワークシートを用いたことで，伝える側も相手に分かりやすい式や図をかくことを意識し，とても効果的だった。

・複合図形の面積の求め方を題材として扱い，児童それぞれの考えを共有することにより，理解を深めて自身の表現力を高めるのに有効的だった。他教科でもこの提案は応用できるのではないか。

〈課題〉

・図や式を「かく」ことでの表現はできているように感じたが，「話す」表現は，まだまだ経験を積む必要があるように感じた。

・「伝える」活動は，面積を求める力を身に付けるための手段だと思うので，可能であれば，自分で発表したり，他の人の発表を聞いたりした後に，学びが深まったかを確かめる時間があると良い。①「２自力解決」の途中で発表を入れ，さらにほかの求め方を個人で再度考える活動にする。②「３比較検討」の後に，他の類似問題に取り組む時間を設けるなどのやり方が考えられる。

・めあてから考えると，面積を求めることができたかどうかの確認の時間があるとよかった。

② 「話型」を活用することによって，筋道を立てて伝える力を向上させることにつながったか。

〈成果〉

・話型は，説明することに慣れていない段階では有効だと思う。算数科に限らず，他教科でも使える形にするとよりよい。

・話型はあると，どの教科でも伝えやすい。

〈課題〉

・他教科でも使えているのか？話型は，発表のところで使えていればよかったのか。「筋道を立てて」の話型が使えていただろうか。

・算数の用語を使った表現ができるようにさせたい。

・発表が全員できなかったことが少し残念だった。全体発表を最初にするのではなく，ペアワークを挟めばハードルが下がり，全員に発言機会があったと感じる。また，話型の活用について確認したかったが，見られないのは残念だった。穴埋めの活用などで，難易度を調整してもよかった。

・形骸化してしまっては意味がない。枠にはまるのが苦手な児童もいると思うので，自由度をもたせる必要はあるかもしれない。

③ 終末段階にスプレッドシートでの振り返りを行い蓄積することによって，反省と次回への意欲向上につながっているか。

〈成果〉

・選べる形式はやりやすくて良い。回を重ねるごとに「自由記述」の語彙が増え具体的に書けるようになるとよい。

・スプレッドシートでの振り返りを行うことで，児童の積み重ねを記録して，いつでも見返すこ

とができる。

・授業の振り返りを短時間で，蓄積する方法として良いと感じた。「分からなかった」「次回は頑張りたい」など記述している児童に，個別に次の授業までに声をかけやすくなると感じた。

〈課題〉

・感想の場面で「できた」「できなかった」だけの記載の児童に対して，「指導をして〇〇ができた。」などの伝える力を育成できるとよい。また，できない児童への支援はどうしていたか気になった。

・スプレッドシートによる振り返りの利点は，過去の自分や他者との比較にあると考える。振り返りの発展性を価値付ける声掛けや，次時で取り上げるなどの工夫があると，より深まると考えた。

（ⅲ）　上記を踏まえた成果と課題

各分科会より多くの意見を頂き，成果と課題が見えてきた。どれも向上の余地はあるものの，分科会提案（２）の「話型」については特に課題があった。

ア　成果

・分科会提案（１）（ワークシートの活用）に関しては，より有効的に活用するための多くの改善案が出た。

・本校の少人数学級の利点を活かし，児童・生徒の変容を見取ることができた。

イ　課題

・分科会提案（２）（「話型」の活用）は発表の苦手な児童には有効であったが，ある程度発表に慣れてきた児童には表現の幅を広げる必要があった。

→【改善案】

「話型」を使って説明や発表する機会を導入し，児童・生徒が慣れてきたタイミングでより算数・数学的な用語を使用し，筋道を立てて説明できるように繰り返し指導していく。また，その際に，児童・生徒同士での共有する場面で，その説明が分かりやすかったかなどを振り返り，その振り返りも共有することで児童・生徒が「もっと分かりやすく伝わるようにしていこう」と改善する機会を作っていきたい。

ウ　研究授業後の取組

本分科会メンバーでは，分科会提案の２つと，授業の振り返り（自己評価）の蓄積から，児童・生徒の変容を見取り，効果的な学習活動の実現に向けて活用した。

〈小学校第６学年での取組〉

〇　「話型」を活用することによる説明する力の向上

児童が考えを説明する際に活用することのできる話型（図１）を教室に掲示するとともに，児童の算数のノートにも貼付した。このことによって，児童は自分の考えを口頭で説明する際には掲示を，書く際にはノートを確認することができた。この取組を継続することで，本学級の児童は筋道を立てた説明をすることが徐々にできるようになった。（図２）

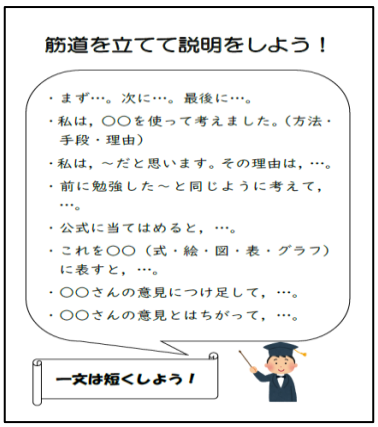


図１（話型）

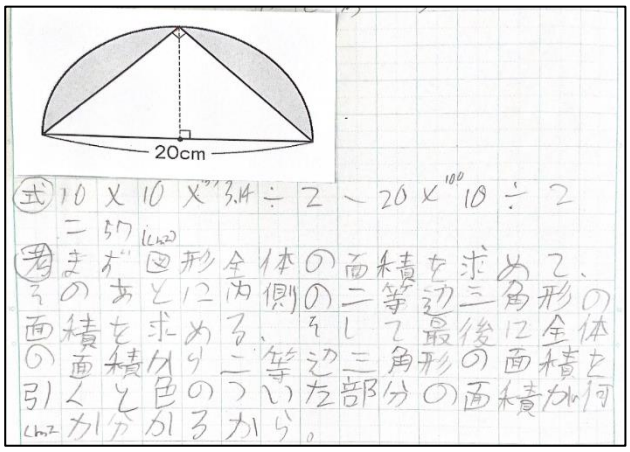


図２（児童のノート）

○　振り返りの蓄積による個別最適な指導

各教科等の授業や単元の振り返りを，算数や外国語科，総合的な学習の時間においては，スプレッドシートを活用した。（図３）プルダウンを用いることで各授業での取組の振り返りが容易になった。また，記述も行い，それを蓄積することによって，児童の学習に対する理解の変容や意欲の向上を見取ることができた。振り返りを書いた都度，教師からのコメントを返したり，直接声かけをしたりをすることで，個別最適な指導を行うことができた。

今日の学習を理解することができた	考えたこと・気づいたこと・次回に向けて	ステータス	先生から
★★★★☆	XX2000÷100になったときは、XX（2000÷100）にすると、XX20になるので、そうしたほうが簡単だと思いました。次回も、簡単なやり方を見つけられるようにしたいです。	提出	算数はいろいろな方法で解くことができるというのもおもしろさの一つだと思います。その中からベストな方法を選ぶことができるとまたよいですね。
★★★★★	今日学んだことを使って、色々な物の長さを調べてみたいなと思いました。今回は、簡単なやり方を見るけることができなかったので、簡単なやり方を考えてみたいと思いました。	提出	例えば何の長さを調べたいと思ったのでしょう？今回の「縮尺」に限らず，算数は身の回りの課題に直結するものが多いです。学習を生活に生かしていきましょう。
★★★★★	頂点Aと、頂点Bの場所を間違えて書いて、ミスしてしまったので、次回からは、頂点の位置にも気をつけてできるようにしたいです。そして、なおすのが時間内にできなかったので、次回からは、なおすところまで時間内に終わるように、時間を意識してやれるようにしたいです。	提出	合同とちがって，左右反転したものは拡大図・縮図とはいえません。テスト前に間ちがえておいてよかったです。テストでも時間を意識しましょうね！
★★★★★	自分の考えた図形よりも、もっと近くなるような図形があると思いました。次回からは、もっと簡単な方法がないかなどを考えながらやれるようにしたいです。	提出	でも，　さんの長方形の考え方が実際の面積に一番近かったですね。今回使った長方形の面積の公式以上に簡単な考え方があるかな？思いついたら教えてください。
★★★★★	cm²をm²にしてやったほうが簡単だと思ったけど、（cm³をm³にするのも）なおしたほうが難しかったので、これからは、1cm²をm²にすると、0.00001m²になることなどを考えてできるようにしたいです。	提出	基本的に問題文のまま計算して大丈夫だと思います。注意しなければならないのは，答えで単位が変わるときです。これからも単位には着目していきましょう！

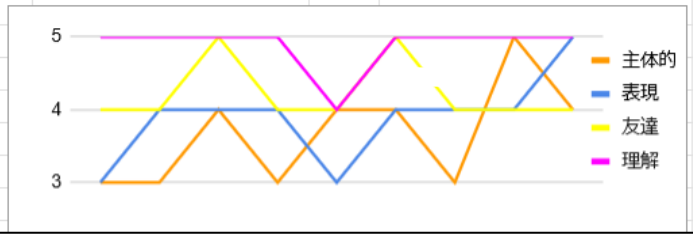


図３（スプレッドシートによる振り返り）

〈中学校理科での取組〉

○　発表活動を通して「表現する力」の向上

Google スライドを作成し発表を行った。スライド作成では文章を最小限にして，図や写真を用いて口頭で説明を行うよう指導することで「表現する力」を高めることができた。また，単元の最後に行うことで，知識の活用と定着を図ることができた。例えば，第２学年の気象分野において，知識を活用して観天望気について調べ，根拠について身に付けた知識をもとに説明する発表を行った。最低限の話型を決めて発表することで，自分の考えをアウトプットする力を育成することができた。

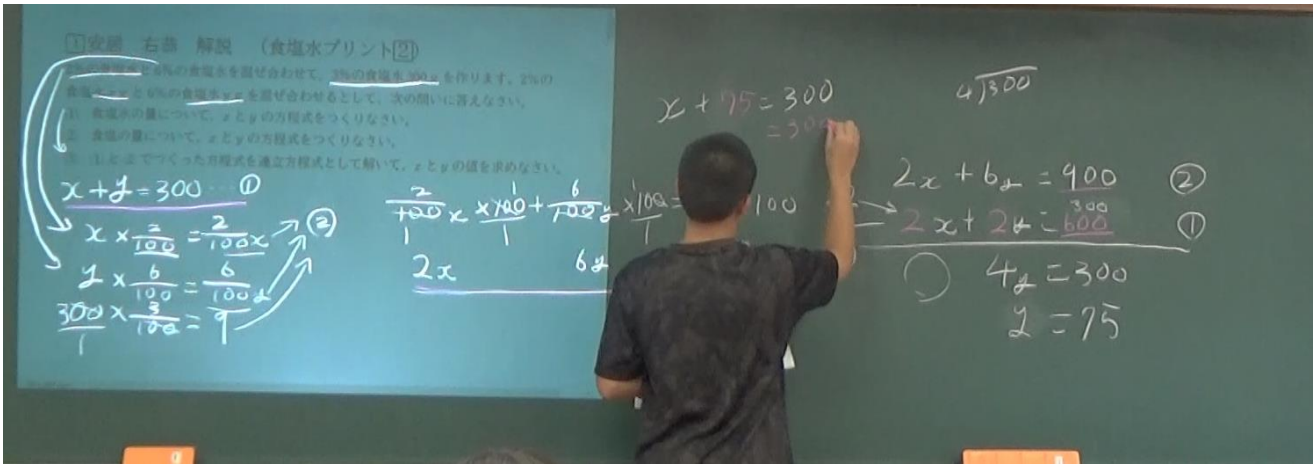
中学校理科では専用の用紙を用いて振り返りを行っていたが，10 月からはスプレッドシートを活用することで，振り返り記入と集約が容易になった。生徒の単元ごとのつまずきや主体性を見取ることができた。課題としては，中学校理科では授業ごとに振り返りを行うと理解度やつまずきを見取りづらく，時間的にも難しい。まとめや単元ごとに振り返りを実施していく。

〈中学校数学科での取組〉

○　発表活動を通して「表現する力」の向上

応用問題の解説を生徒が行う機会を作った。生徒は，専門用語を無理に使おうとして，説明に詰まってしまうこともあったが,回を重ねるごとに分かりやすく伝えようと工夫していた。

下の写真は中学２年生の連立方程式の利用での解説しながら板書している場面である。（問題文はプロジェクターで投影している。）問題文のどの部分がどの式を表しているかを下線と矢印を使用して説明を行うことができた。



○　スプレッドシートによる振り返りの実施

中学校数学科では３学年ともにスプレッドシートによる振り返りを実施した。１学期は記述する項目が多く，授業時数の多い数学科では生徒が書くことが嫌になってしまう場面が増えた。２学期にはスプレッドシートのプルダウンを使用し，記述は観点を絞って１項目にとどめたところ，自由記述欄には意欲的に記述するようになった。生徒の理解度の判断もプルダウンにしたことにより見やすくなった。下の写真は生徒の振り返りシート入力後の画面である。内容は授業を重ねるごとに具体性が増していることが分かる。

3		月		日	内容	本日の内容は理解できた	ノートやワークシートにしっかり書けた	発表や説明は上手にできた。伝えられた。	問題を解けた	自由コメント
28	１１	月	8	日	角の大きさを求めよ	3 ふつう	5 きれいに書けた	3 ふつう	4 まあまあ解けた	普通の大きい足し算で凡ミスをすることがけっこう多い。がいかくのわがぜんぶ１８０度なのにけっこうずっと驚いている。
29	１１	月	9	日	問題演習	4 できた	5 きれいに書けた	3 ふつう	4 まあまあ解けた	内閣の計算のときに、引く２をし忘れてしまうことがけっこうあったので、気をつけて問題を解きたいと思いました。後は鈍角三角形と鋭角三角形と直角三角形の見分け方が曖昧なので演習をしたいと思いました。
30	１１	月	１０	日	１次関数の利用テスト、三角形の合同条件	4 できた	6 特になし	4 できた	4 まあまあ解けた	１次関数のテストのときは、教科書にあった問題がその通りに出たのでとりあえず生き延びたのですが、てすとでは、教科書レベルの問題はなかなかでないので。切り替えしときたいと思った。さんかくけいのほうは、むか
31	１１	月	１３	日	暗証テスト、証明	4 できた	4 書けた	3 ふつう	4 まあまあ解けた	記す順番がいまいちよくわからなくなってしまうけど、今の所はけっこうついていけてます。思いだす発送が大切だと感じました。理解はけっこうできてよかったです。

今後は「表現する力」が伸びているか変容を見取るため，「思考・判断・表現」の観点を評価する授業の際に，生徒自身が発言や説明を自己評価できるように設定していく。

（ⅳ） 分科会の活動記録

日程	活動記録
5 月 26 日（金）	・単元の決定 ・指導案の作成分担
6 月 22 日（木）	・分科会提案の検討 ・授業内容の検討
7 月 6 日（木）	・分科会提案の修正 ・授業内容の検討
7 月 13 日（木）	・レディネステストの考察 ・レディネステストの結果を指導案に反映するための検討
9 月 7 日（木）	・分科会提案・指導案の確認，修正箇所検討
9 月 14 日（木）	・分科会提案・指導案の最終確認
11 月 2 日（木）	・授業観察後の意見交換。児童理解。
11 月 13 日（月）	・前日打ち合わせ・準備
11 月 14 日（火）	・研究授業当日
12 月 7 日（木）	・報告作成
12 月 18 日（月）	・報告検討・修正

※上記日程以外にも，Google チャットのグループを分科会で作成し，頻繁に指導案修正，意見交換を行っていた。

（３）Ｃ分科会

①分科会提案

（ｉ）分科会メンバー

○分科会長・中学校技術科担当　○授業者・中学校美術科担当　○中学校家庭科担当

○小学校専科担当　○小学校３年生担任

（ⅱ）研究授業実施教科等

中学校第２学年　美術科　「母島育ちの自分～魅力を伝えるオリジナルポスター」

（ⅲ）分科会による「表現する力」の定義等

ア　定義

「他者の表現を分析することで，自分が表現者になった場合に相手に伝わる表現方法に活用できる力」

イ　定義付けの背景

作品等から作者の思考や意図等を読み取る力や，自分の思考や意図等が，他者に伝わるよう作品を作り上げる力を育成することで，豊かな発想力や，分科会で扱う各教科における見方や考え方、感じ方を深めることなどにつながると考えた。「伝える」と「伝わる」ことの違いを明確にし，ただ自分の発想を相手に「伝える」だけではなく，対象を捉える造形的視点について理解を深めることで，相手に「伝わる」表現方法を身に付けさせたい。そのために，児童・生徒同士の協働作業や教員との対話を意図的・計画的に設定し，作品の多角的・多面的な分析から，発想力・構想力を高めることを目指したいと考えている。

（ⅳ）育成を目指す資質・能力を身に付けるための分科会提案

（１）相手に伝わる表現方法を活用できるようにするための協働作業

（２）他者の視点を忘れないコミュニケーションを行うための学習過程

５　分科会提案の設定理由

（１）制作中の作品について中間発表を行い，自分の作品の進捗状況を見てもらうだけでなく，他者の作品の途中経過を見る機会を設ける。生徒が自らの作品に向き合うだけで制作時間を終えるのではなく，他者に向けて言語化する中で，豊かな発想力や，美術に対する見方や感じ方が深まると考えた。

（２）中間発表の際に，他者の作品へのアドバイスを互いに共有する対話的な学習活動と作品分析から，より相手に「伝わる」表現方法を身に付けるとともに，多角的・多面的な分析作業により，作品への発想力・構想力も併せて高められると考え，本分科会ではこの提案を行う。

② 研究授業学習指導案

中学校　第２学年　美術科　学習指導案

日　時　令和５年 11 月 15 日(水)
５校時 13：20～14：10
学校名　小笠原村立母島小中学校
対　象　中学校第２学年１組７名
会　場　２階　中学校第２学年教室

母島小中学校研究主題
「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」

１　題材名

魅力を伝えるオリジナルポスター「母島育ちの自分」
Ａ表現（1）ア(ア)，イ(イ)，(2) ア（ア）及び（イ），Ｂ鑑賞（1）ア(ア)及び(イ)
〔共通事項〕(1) ア及びイ
光村図書（美術２・３），美術資料　東京の美術（秀学社）

２　題材の目標

（１）「知識及び技能」に関する題材の目標

・材料や用具の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求し，制作の順序を総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。【Ａ表現（2)】
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解し，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などでとらえることを理解する。【〔共通事項〕(1)】

（２）「思考力，判断力，表現力」に関する題材の目標

・対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと，想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し，形や色，材料の組み合わせを考え，創造的な構成を工夫して心豊かに表現する構想を練る。【Ａ表現（1)】
・造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え，見方や感じ方を深める。【Ｂ鑑賞（1)】

（３）「学びに向かう力，人間性等」に関する題材の目標

・美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に主題を生み出し，身近な環境や他者の作品から感じ取ったよさや美しさを基に構想を練り，意図に応じて工夫し，表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む。

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
知①形や材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果を理解し，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などでとらえている。 技②材料や用具の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求して表している。 技③材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら，見通しをもって創造的に表している。	発①対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと，想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し，創造的な構成を工夫している。 発②「母島育ちの自分」の魅力を伝えるために，形や色，材料の組み合わせなどを考え，心豊かに表現する構想を練っている。 鑑③他者の作品から造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え，見方や感じ方を深めている。	態表①美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に主題を生み出し，身近な環境から感じ取ったよさや美しさを基に構想を練り，意図に応じて工夫し，表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑②主体的に他者の作品からよさや美しさを感じ取り，心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの鑑賞活動に取り組み，見方や感じ方を深めようとしている。

４　指導観

（１）題材観

本題材は，中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　美術編，第３章第２節〔第２学年及び第３学年〕の「表現」と「鑑賞」に関して以下のように記されている内容に基づいて題材を設定した。

第３章第２節〔第２学年及び第３学年の目標と内容〕　２　内容

Ａ　表現

(1) 表現の活動を通して，次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア　感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵や彫刻などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）　対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。

イ　伝える，使うなどの目的や機能を考え，デザインや工芸などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（イ）　伝える目的や条件などを基に，伝える相手や内容，社会との関わりなどから主題を生み出し，伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して，次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア　発想や構想をしたことなどを基に，表現する活動を通して，技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）　材料や用具の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

（イ）　材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表すこと。

B　鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して，次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア　美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して，鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）　造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。

（イ）　目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）　形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

（イ）　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などでとらえることを理解すること。

本題材は「母島育ちの自分」を扱った架空の映像作品を考案し，その宣伝ポスターを描くという形式で，既存の映画ポスターを参考に，デザインに必要な工夫を分析するための鑑賞活動を序盤に行う。見る人を惹き付ける宣伝効果の高いポスターにはどのような工夫がされているか，色彩や光のもたらす効果などを分析しながら優れたポスターをデザインするために必要なポイントをまとめ，中間発表の際には既存のポスターの鑑賞でまとめたことや知識を活用して他者の作品分析を行い，ブラッシュアップにつなげていくことができると考える。

表現技法や描画材料については自由とし，履修済みのものの中から得意な技法や画材を選んだり，未経験の技法・画材で興味があるものに挑戦したりしてもよいが，自分の設定したテーマやコンセプトに合うものを意図して選ぶことが望ましい。ポスター着彩の工程で異なる描画材料を用いて全く別の技法を実践する生徒が混在することになるため，授業内での支援も多岐にわたるが，夏季休業中の課題としてポスター制作のための習作を課しており，生徒が自ら主体的に技法や画材の模索に取り組み，練習や試作を積み重ねる期間を設けている。生徒の選択に応じて支援も繁雑になることが予想されるが，それぞれが設定した主題に対してより相応しい表現になるように，また，イメージした完成形により近づくように選択肢を増やすことを意図している。

本題材はファインアートの表現活動ではなく，商業ベースの宣伝ポスターという形をとることで，伝える相手や社会と美術のつながりを意識した表現活動となり，中間発表での生徒相互の作品分析などにより，自身の表現を客観的にとらえながらデザインのブラッシュアップを図っていくことができると考える。

（２）生徒観

本校は全学級が少人数学級のため，児童・生徒観の項目は児童・生徒の特定につながる恐れがあります。そのため『（２）生徒観』の項目は学習指導案集において，非掲載とします。

（３）教材観

本題材は，１枚のポスターを制作する過程で構想ワークシートを含めた習作など複数の成果物を課す題材である。構想段階や鑑賞活動で感じたこと，分析して考えたことなどを言語化する活動に重点を置いているが，文字や文章などを書くことに抵抗感があることで力を発揮しきれない生徒に配慮して生徒個人に支給されているタブレット（Chromebook）を活用する。具体的には資料や情報の収集をする他に，意見交換やメモなどの簡易的な記録として Jamboard，まとめなどの文章を記入するワークシートは Google ドキュメントやスプレッドシート，発表などのプレゼンテーションを Google スライドで作業するなどが挙げられる。これにより学びの様子をオンラインで確認しながら進捗状況に併せたリアルタイムの支援が可能である。

学習環境としての美術室の材料及び用具に関しては，限りはあるが生徒が様々な技法を試すには十分な種類と量がそろっている。また，夏季休業中の習作課題を設定していることにより，不足している材料や資料を収集したり，技法を試して練習したりするための余地も十分であると考える。生徒のうち一定数がスマートフォンや家庭で所持しているタブレット端末などで利用できるアプリケーションでデジタル描画に慣れ親しんでいることが分かっている。本題材を実施する第２学年７名のうち４名がデジタルでの描画を日常的に行い，イラスト制作をしている。本題材において表現技法や描画材料は自由という説明を受けて，一部の生徒から「デジタル描画の選択肢はあるのか」という問いがあった。しかし，デジタルツールで描画したものを印刷物として画質や紙質にこだわって作成するというところまでは至っていないのが現状で，デジタル端末の普及率に反してプリンターなどの出力機器の普及率は低いようである。１学期の段階では本校生徒がデジタルツールで描画した作品は未確認であったが，今後の活用も見据えて本題材とは別に夏休みの思い出を自由に描くという，他学年にも共通で出した課題においてデジタルツールでの描画を認め，数名が挑戦した。作品は掲示するために既定のサイズで体裁を整えて出力する必要があることを伝えたが，いずれも手描きで提出した生徒たちの作品と並べて掲示できる状態ではなかった。その後，個別にツールの説明やサポートを追加で行うことで掲示に至ったが，挑戦した生徒だけでなく作品を見た他の生徒も含め，デジタルツールでの描画を自分の選択肢の一つとして挙げてよいか，あるいは使いこなすために何が必要かを考える良いきっかけとなった。デジタルツールを描画の選択肢としてもっているという事実は頭に置いておき，今回は紙に直接描画するという条件を付けて技法は自由と設定した。いずれはデジタルの描画ツールを選択できるような環境が整備されることが望まれる。ただし，アイデアスケッチや習作などの段階においてデジタルツールの活用を認めることとした。

５　年間指導計画における位置付け

本題材は１学期の終盤から夏季休業を挟んで２学期にメインで取り組む題材として位置付けている。対象の２学年を担当するのは今年度４月からで，生徒との関係性や授業のペースなどから総合的に判断し，知識や技能の習得，ブラッシュアップや習作の時間も考慮して夏季休業を間に挟み，前半と後半に分けて取り組む題材とした。本来であれば１年次から授業を担当している生徒を対象に，制作のプロセスなどについてペースがつかめている状態で，間に他の題材を挟まずに実施でき

ることが望ましい。

【令和５年度　中学校第２学年　年間指導計画】

	題材名	学習活動
４月	・「伝える」と「伝わる」はどう違うのか？ ーオリジナルピクトグラムデザインー ・比べる鑑賞「新旧ポスター編」	・情報を伝えるデザインについて考え，母島ならではのオリジナルのピクトグラムを共同でデザインし，プレゼンテーションする。 ・映画のポスターを中心に，時代と共に移り変わる表現技法やレイアウト，文字のデザインについて比較して鑑賞し，考えをまとめる。
５月		
６月	・イロイロ実験室２，３ （色彩理論応用編／色彩理論発展編） ・モノクロームの世界ー私の好きな母島の場所からー	・１年で学習した色彩理論をさらに発展させて学習する。 ・水墨画の表現に関心をもち，墨の特性や効果を考えながら創造的に絵で表す。
７月	・魅力を伝えるオリジナルポスター「母島育ちの自分」（前半）第１～３時	・「伝える」と「伝わる」の違いを意識しながらオリジナルポスターを制作する。
８月	・【夏季課題】ポスターのための習作 ・【夏季課題】夏休みハイライト	・ポスター制作に向けて習作に取り組む。 ・夏休みの思い出を描く。（画材・技法自由）
９月	・比べる鑑賞「日本美術編」	・狩野派や琳派を中心に日本美術の移り変わりや表現技法などについて，比較しながら鑑賞し，考えをまとめる。
10 月	・魅力を伝えるオリジナルポスター「母島育ちの自分」（後半）本時　第４～11 時	・ポスター制作の中間発表から仕上げまでの制作活動に取り組む。
11 月		
12 月	・螺鈿風工芸ー用と美を兼ね備える手仕事ー	・実用性と美しさを兼ね備えた工芸品の魅力について考えながら，螺鈿風の作品を作る。
１月	・環境デザインー母島と調和するパブリックアートー	・彫刻と場所や人との関係に着目し，作品と環境が調和するデザインを考え，プレゼンテーションする。
２月		
３月		

６　題材の指導計画と評価計画（全 11 時間）

時	目標	○学習内容　・学習活動 ☆表現活動	評価規準 （評価方法）
第１時	既存のポスターの鑑賞から感じ取ったことや考えたことをまとめ，デザインする上で必要なことを分析できる。	○既存のポスターを鑑賞する。 ・制作者の意図や表現の工夫について考える。 ☆優れたポスターから，情報を伝えるデザインや魅力が伝わるデザインについて学んだこと，自分の制作に生かしたいことを文章にまとめる。 ☆オリジナルポスターについて構想を練り始める。 ・「母島育ちの自分」はどのように形成されたか考える。	ウ－②（ワークシートの記述・内容） イ－①（ワークシートの記述・内容）
第２時	「母島育ちの自分」の魅力を伝えるための構成要素について考えを練ってスケッチできる。	○ポスターのアイデアをワークシートにまとめる。 ・「母島育ちの自分」を表現するために入れたい要素やモチーフ，背景について考える。 ・タイトルやキャッチコピー，ポスターに入れる文字と用いる書体などについて考える。	イ－①②（ワークシートの記述・内容）
第３時	表現したいことを実現するための探究心や向上心をもって，習作を作ることができる。	○資料集「レオナルドの手稿」から作品制作に必要な観察や考察，習作の必要性を学ぶ。 ○ポスターの習作を開始する。 ・現段階でイメージしている背景をどのように表現すれば描くことができるか考えながら試す。	ア－①②（ワークシート，クロッキー帳，試し描きの内容） イ－②（クロッキー帳，試し描き用紙の内容）
授業外 夏季課題	作品のテーマやコンセプトに合う表現技法や配色を試しながら考えることができる。 作品を理想に近い形で仕上げるために，資料収集を行って参考にしたり，模範として表現技法の練習を繰り返したりしてイメージを膨らませることができる。	○参考作品の鑑賞や資料収集を行う。 ☆ポスターのための習作を進める。 ・ポスターに描く予定のモチーフや背景について資料収集や観察，スケッチを繰り返す。 ・様々な表現技法や配色を試しながらテーマやコンセプトに合うものを探究する。	ア－①（クロッキー帳，試し描き用紙の内容） イ－②（クロッキー帳，試し描き用紙の内容）
第４時	作品完成までの見通しをもって計画を練ることができる。	○ポスターの下描きを完成させる。 ☆配色計画，工程表を完成させる。	ア－①（スライド） ア－③（ドキュメ

	作品改善の的確なアドバイスをもらえるよう，見る人に伝えることを意識して中間発表の準備をする。	・色相の組み合わせやトーンなどを試した上で配色を決定する。 〇中間発表の準備をする。 ☆テーマやコンセプトを実現するためにどのような意図をもって表現技法や配色を選んだのか説明できるようにスライドにまとめる。 ・表現の工夫や意図を見る人に正確に伝える。	ントの記述・内容，活動の様子） イ－①②（下描きワークシートの記述・内容，スライドの記述・内容） ウ－①（下描きワークシートの記述・内容，スライドの記述・内容）
第５時（本時）	自分の作品について，表現の意図や工夫を他者に伝えることができる。 相互の作品鑑賞で感じ取ったことや考えたことを記録して文章にまとめることができる。	【中間発表　前半】 〇相互の中間発表を鑑賞する。 ☆自分の作品の中間発表をする。 ・作品の下描きを見せる。 ・テーマやコンセプトを説明する。 ・表現技法や配色について説明する。 ・進捗状況と今後の計画を説明する。 〇他者の作品について中間発表を鑑賞する。 ・作品の良かったところを書く。 ・作品へのアドバイスを書く。	イ－②（発表内容） イ－③（ドキュメントの記述・内容）
第６時	自分の作品について，表現の意図や工夫を他者に伝えることができる。 相互の作品鑑賞で感じ取ったことや考えたことを記録して文章にまとめることができる。	【中間発表　後半】 〇相互の中間発表を鑑賞する。 ☆自分の作品の中間発表をする。 ・作品の下描きを見せる。 ・テーマやコンセプトを説明する。 ・表現技法や配色について説明する。 ・進捗状況と今後の計画を説明する。 〇他者の作品について中間発表を鑑賞する。 ・作品の良かったところを書く。 ・作品へのアドバイスを書く。	イ－②（発表内容） イ－③（ドキュメントの記述・内容）
第７時	鑑賞活動で感じ取ったことや考えたことを基に，作品の改善点を考えたり，計画を修正したりすることができる。	〇鑑賞のまとめを振り返る。 ・アドバイスを受けて改善する点などを計画ワークシートに書き込む。 ☆ポスター本番用紙に着彩する。 ☆中間発表を踏まえ，計画ワークシートを基に着彩を開始する。	アー③（ドキュメントの記述・内容） イ－③（ドキュメントの記述・内容） ウ－②（ドキュメントの記述・内容）

第８時 第９時 第 10 時	「母島育ちの自分」の魅力を伝える構成を工夫して表現することができる。 制作の順序や時間配分を考えながら完成までの見通しをもって表現することができる。	☆ポスターの着彩を進める。 ・これまでに身に付けた色彩の知識や表現技法を生かして創造的に表現する。 ・テーマやコンセプトに合うように工夫しながら表現する。 ・進捗状況を見極めながら計画の微調整をし，完成に向けて進める。	アー①②③（制作の様子） イー①②（制作の様子） ウー①（制作の様子）
第 11 時	他者の作品からよさや美しさを感じ取り，表現の意図や創造的な工夫を発見することができる。 相互の作品鑑賞で見方や感じ方を深め，今後の制作に生かそうと分析することができる。	☆完成作品鑑賞 ・完成した作品を発表しながら，自評を行う。 ☆まとめレポートを書く。 ・制作を終えて，全体を通して学んだことや考えたこと，今後の制作やその他のことに生かそうと思うことを文章にまとめる。 ・相互の作品の中間発表や鑑賞活動で学んだこと，今後の制作やその他のことに生かそうと思うことを文章にまとめる。	イー③（ドキュメントの記述・内容） ウー①②（ドキュメントの記述・内容）
授業外 題材 終了後			アー①②③（作品） イー①②（作品）

7　研究主題に迫るための手だて

（１）作品制作の中間発表を通して，相手に「伝わる」表現方法を身に付ける。

制作中の作品について中間発表を行い，自分が設定した主題とそのための表現，そしてどのような意図でどう工夫を凝らしたのかを含めて説明し，自分の作品の進捗状況を見てもらう機会を設ける。生徒が自らの作品に向き合うだけで制作時間を終えるのではなく，他者に向けて言語化したり他者の発表を聴いたりする中で，豊かな発想力や構想力，美術に対する見方や感じ方が深まると考える。完成作品ではなく途中経過の発表を行うことで，自分の作品が完成した時のイメージとそこまでのステップを明確にし，つまずきを可視化して共有しながら客観的に自分の作品を見ることができる。また，悩んでいる部分について他者と共有することで，課題解決に向けた対話的な活動を取り入れ，自分が伝えたいことが相手に「伝わる」ためにはどのような工夫が必要か，相手の反応を見ながらブラッシュアップしていくことが期待できる。

具体的な手だてとして，中間発表を行う際に他者に伝えるための要点を押さえた発表用原稿とスライドを用いて，アドバイスをもらいやすいよう工夫する。事前に発表用原稿やスライドの作成時間を設け，指導する。

（２）他者作品の途中経過分析を通して，相手に「伝わる」表現方法を身に付ける。

上記の中間発表の際に，他者の作品を見て感じたことやアドバイスを互いに共有する対話的な学

習活動を取り入れ，アイデアのブラッシュアップを図る。他者の作品の途中経過を見る機会を設け，制作者の意図や工夫について説明を受けながら作品分析を行う中で，ねらいとアウトプットの結果についての相関関係は抽象度にも左右されるが人によってとらえ方が多種多様であることに気付くはずである。ここで，様々な価値観をもつ人々に対して伝えたいことが「伝わる」ための工夫は容易ではないという現実に直面する。しかし，だからといって最初から「受け取り方は人それぞれ個人の自由ですよ」といったスタンスでの表現は身勝手である。多様な価値観や自由な解釈を認めつつも，自分が何を伝えたいのかは明確に意図して「伝える」ことが表現をする上で必要な責任であると考える。もちろんそれを支えるのは知識に基づいた技能であり，他者の視点を忘れないコミュニケーションを前提とした表現活動をする中で，必要不可欠な要素として認識し，磨いていってほしいものである。これらの活動を通して，相手の表現の意図や工夫が自分に「伝わった」と感じるのであれば，効果的な表現技法について知ることができ，他の生徒が入力した内容を受けて自分の意図が伝わったのかどうか，感触を確かめることもできるのではないかと考える。

また，対話的な活動を取り入れることで作品完成までの多様なレベルのステップを知ることができるとともに，互いに手を借りながらブラッシュアップに取り組む過程で，課題解決の視点やスモールステップの刻み方なども身に付き，今後の制作やその他の様々な場面で汎用的な課題解決の力や主体的に物事に取り組む力が磨かれることも期待できる。

具体的な手だてとして，他者の中間発表を見てメモをとり，良いと思ったところやアドバイスなどを入力するためのワークシートに入力して全員で共有できるように指導する。

また，他者からのアドバイスを参考にしながら，より「伝わる」表現にするためにはどう改善すればよいか，必要に応じてアイデアを練り直す余地を設けるが，あくまでも良いと思ったところと，発表者が悩んでいるポイントに絞って具体的な代案を出すようなアドバイスをおくるように促し，アイデアに対して否定的な内容を書かないように留意する。改善のためのアドバイスも受け取り方は自由とし，すべてを真に受けて振り回される必要はないことを押さえておく。アイデアがほとんど練り直しになるほど大幅な変更にならないよう，進捗状況と今後の計画も踏まえて見通しをもち，完成に向けたブラッシュアップを進められるようにうながす。

８　本時（全 11 時間中の第５時）

（１）本時の目標

・自分の作品について，表現の意図や工夫を他者に伝えることができる。

・相互の作品鑑賞で感じ取ったことや考えたことを記録して文章にまとめることができる。

（２）本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動 ☆表現活動	・指導上の留意点 △配慮事項	□評価規準 （評価方法）
導入 10分	・前時の振り返りをする。	・作品の完成イメージと，完成に向けた計画の進捗状況，悩んでいること，アドバイスがほしい部分について，具体的に伝えられるように中間発表のスライド準備を進めておくことを前時までの授業で伝える。 ・相手に「伝わる」かどうかという視点で，スラ	

	・目標を確認する。	イドの体裁などの技術面も評価するが，視覚的な情報だけでなく，スピーカーノートに記載されている原稿内容を確認し，要点を押さえているかどうかも評価対象であることを前時までの授業で伝える。 △発表前の各自の作業中スライドを確認し，不足している部分を補うよう，アドバイスをする。 ・鑑賞のポイントやブラッシュアップの視点など前時までの指導をスライドで振り返る。	
	お互いの作品を鑑賞して感じ取ったことや考えたことを今後の制作に生かす。		
	・発表準備をする。	・発表者がアドバイスを求めている部分について重点を置いて考えること，さらに発表者の表現の意図と工夫について説明を聴いてより良いアイデアが浮かんだ場合には提案すること，など，相互の作品のブラッシュアップを図るための中間発表だということを意識付ける。 △時間の使い方に気を付け，目標を達成するために全員で協力するよう声かけをする。	
展開 30 分	○自分の作品についてスライドを用いて中間発表を行う。（５分以内）前半４名 ☆表現の意図や工夫と，現段階で悩んでいる点やアドバイスがほしい部分について発表する。 ・他者の発表を聴きながらアドバイスができるようワークシート（スプレッドシート）にメモをとる。 ☆発表後，ワークシート（スプレッドシート）に発表者の表現の意図と工夫について分析しな	・スライド発表とワークシート入力，指導者のコメント，発表者の入れ替え時間も含めて１人当たり７分で設定する。 ・後からスライドを参照できることも含めて，メモはキーワードを入力する程度とし，発表を聴くことに集中するよう指導する。 ・発表後，コメントやアドバイスを入力してもらう時間を有効活用できるよう指導する。鑑賞者からのアドバイスが集約されるワークシート（ドキュメント）内のリンクを更新しながら入力中の内容を読んでもよい。 ・発表後，発表者がその場にいる状態でコメントをする。表現の意図と工夫の説明が優れている部分について価値付け，発表者が説明しきれなかった部分やアドバイスを特に必要としてい	□イー②（発表内容） A：主題に沿った表現の意図と工夫が具体的に書くことができ，完成形のイメージが伝わるように説明できている。 B：表現の意図と工夫が説明できている。 C：表現の意図と工夫が説明できていない。

	がら，良いと感じたところとアドバイスを入力する。	る部分に関して気付きを与える。 △アドバイス入力中に机間指導を行い，手が止まっている生徒には，良いと感じたところだけで終わらず発表者がつまずいているところに注目し，「ベストでなくてかまわないので，別のアイデアを共有してあげるつもりで考えよう」と具体的に例を示しながら支援する。 ・次の発表が始まる前に入力が終わらなかった場合は，一度入力を止めて発表終了後のまとめの時間で入力するよう指導し，発表を聴くことに集中できるようにする。	
まとめ 10分	○中間発表を振り返る。 ☆他者の中間発表から学んだことや，他者からのアドバイスを受けて考えたことをワークシート（ドキュメント）に入力する。 ☆中間発表での相互の作品鑑賞を経て，次回以降の制作に向けて考えていることなどを振り返りワークシート（ドキュメント）に入力する。 ○次回の活動と課題について確認する。	・もらったコメントやアドバイスを読みながら，制作者の立場でどのようなアドバイスをもらえると参考になるのか考え，他者に対して自分が入力した内容を見直して補足してよいことを伝える。 △自分の発表の悪い点ばかりを反省していて改善点が書けていない場合には，次回以降の制作に向けてどのようなことをするべきか，具体例を示しながら支援する。 ・本時の目標をもう一度示し，実現状況を確認して自己評価をするよううながす。 ・時間に余裕があった場合，振り返りの内容を２名程度に発表してもらう。	□イー③（ドキュメント記述） A：発表者がつまずいているところやアドバイスを求めている点について具体的なアイデアを示した内容が書けている。 B：具体的なアドバイスが書けている。 C：具体的なアドバイスが書けていない。

（３）本時の評価規準に応じた支援

発表の内容	A評価	B評価	C評価
評価規準	主題に沿った表現の意図と工夫が具体的に書くことができ，完成形のイメージが伝わるように説明できている。	表現の意図と工夫が説明できている。	表現の意図と工夫が説明できていない。
生徒への 具体的な支援		何を意図してどのような工夫をしたのか，作品の完成形がイメージできるような具体的な説明を書くよう促す。	自分の設定した主題を表現するために，何をどのように描くつもりなのか考え，具体的に説明してみるよう促す。

ワークシート	A評価	B評価	C評価
評価規準	発表者がつまずいているところやアドバイスを求めている点について具体的なアイデアを示した内容が書けている。	具体的なアドバイスが書けている。	具体的なアドバイスが書けていない。
生徒への 具体的な支援		発表者が悩んでいるポイントについてどのような代案が思い浮かぶか問いかけ，具体的にアイデアを書いてみるよう促す。	発表者が悩んでいるポイントについて自分ならどのように表現するか問いかけ，思い付いた内容を具体的に書いてみるよう促す。

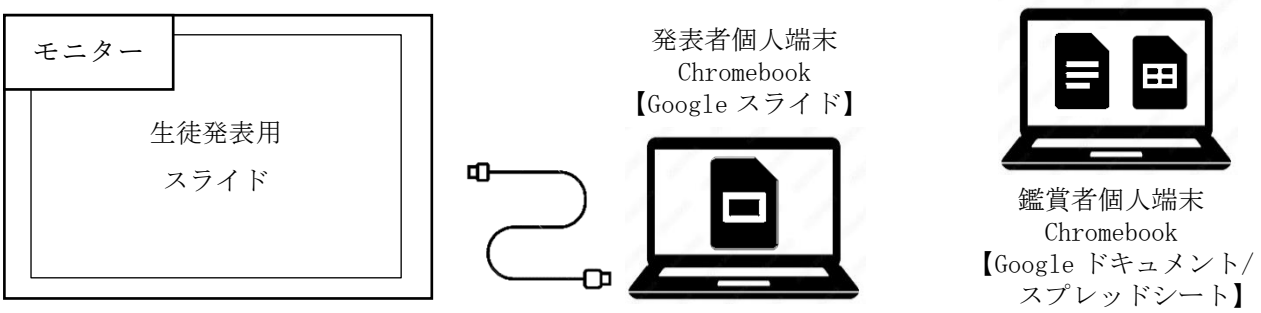
（４）板書計画

2023 年 11 月 15 日　魅力を伝えるオリジナルポスター「母島育ちの自分」

今日やること　中間発表　～ブラッシュアップのための鑑賞～

目標　互いの作品を鑑賞して感じ取ったことや考えたことを今後の制作に生かす。

鑑賞のポイント ブラッシュアップの視点 【図】	いいねコメント アドバイスの【例】



（５）ＩＣＴ機器の活用

（１）活用機器	タブレット端末：Chromebook
（２）使用ソフトウェア	ソフト名：スライド，スプレッドシート，ドキュメント
（３）活用した学習場面	発表，鑑賞活動，まとめ

１　発表用のスライドはテンプレート化したものを Google Classroom から配付し，各自で作成する。習作や下描きなど生徒が手描きしたものは都度スキャンして画像データの状態で Classroom から共有する。生徒が画像ファイルをダウンロードし各自スライドに貼り付けて編集する。

2　スライドは発表後も生徒が参照できるように Classroom の授業ページから課題として提出後，発表前にストリームに全員分を掲載する。その際，編集権限は作成者個人のみとし，その他の生徒は閲覧のみ可能なファイルとして共有する。

3　鑑賞者が個別にメモをとって入力するワークシートは Google スプレッドシートを用い，入力された内容を Google ドキュメントにリンクで貼り付ける。スプレッドシートの入力内容が更新されるとドキュメントも更新され，全員からのアドバイスが一つのドキュメントにまとまった状態で発表者に共有される。ドキュメントを全員で共同編集してもよいが，本時では発表を聴きながら個人がメモを入力する欄も設けるため，全員分のアドバイスなど必要な情報のみを集約するためにこの形式をとる。

4　授業の振り返りシートはドキュメントに表形式で入力し，継続して使えるものを配付している。生徒がその日の目標と活動内容，学んだことや発見したこと，自己評価を入力する。

（6）授業観察の視点

・中間発表で相互の作品の鑑賞活動を通して分析やアドバイスを行うことは，相手に「伝わる」表現方法を身に付けるのに有効であるか。

・意見交換やアドバイスはその場での活発な対話やグループ活動などが望ましいが，本時では生徒の実態を踏まえ，考えを整理して文章化してから相手に伝える形をとる。この活動は表現力を向上させるのに効果的であるか。

③　分科会報告（研究協議会、指導・講評を受けた振り返り）

（ｉ）授業者による研究授業の自評

・表現の意図や工夫を他者に伝えるための中間発表をすることができた。

・生徒の実態に合わせて，直接的な対話活動ではなく考えを文章化しながら整理し，他者に伝えることを重視した活動をすることで，お互いに質の高いアドバイスをすることができた。しかし，発表原稿を読んでいるだけの印象や，言葉選びなどが参観者には難しい印象を与えたこと，よりカジュアルな対話活動が望ましいことは事実である。実際は，生徒が発表で用いた語句などは学習に則した既習事項であり，決して高度な内容ではないため，生徒同士は互いに共通の知識として理解することができている。今回の授業のような経験を重ねて，将来的に事前の準備や教師のサポートがなくても，よりカジュアルで自然発生的な対話活動の中で，同等の質の中間報告やアドバイスができるようになることが望ましい。今回の授業では，そのためのステップとしてこのような形式をとったこと，時間をかけてサポートしたことが有効であったと考える。

・作品のブラッシュアップという意味での「表現力」の向上を目指して行った中間発表において，意図や工夫を伝える力という意味での「表現力」の向上が見られたが，中間発表を経て作品がブラッシュアップされることで「表現力」が向上したかどうかは，授業時点では不明であった。制作開始時と作品完成時を比較した際には，すべての生徒の作品で十分な成果が見られた。

・ＩＣＴを活用して効果的な活動ができたが，研究授業としてオンラインで見てもらうことを想定した構成になっているため，より対話的な活動に発展させていくこともできると考える。

（ⅱ）研究授業後に参観者から得られた意見や評価

ア　実践女子大学大学教育研究センター特任教授　中村一哉　先生による指導と講評

・本授業の研究推進としての視点より，母島を教材化した取組の成果がある。
　→語彙を増やす活動，実感を伴う「母島」を題材にする活動が，生徒の表現力を高める。

・美術科の「見方・考え方」と教科目標について
　→「他者の視点」「他者の立場」を考えさせ，最終的には「社会との関わり」へ視点を向ける。

・美術科における「ＩＣＴ化」について
　→今回は主に相互に批評し合う「コミュニケーション」活動で利用した。鑑賞・制作などの場面でＩＣＴを活用することで，より効果的な指導が可能になる。

イ　参観者からの意見や評価等

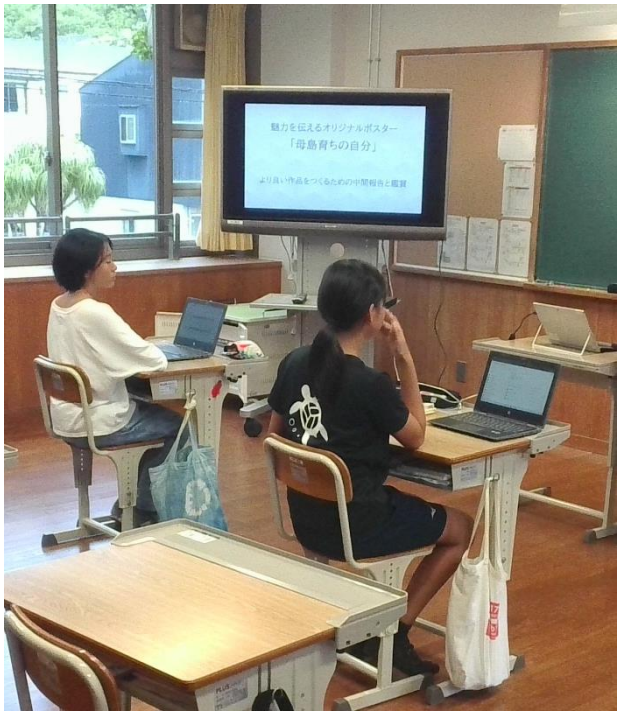
・他者の作品を分析することで，自分の振り返りにもなり作品の向上にはなると思う。言語化しての表現は，すでに作り上げているプレゼンを直すことは難しいので，向上につながるかは疑問。

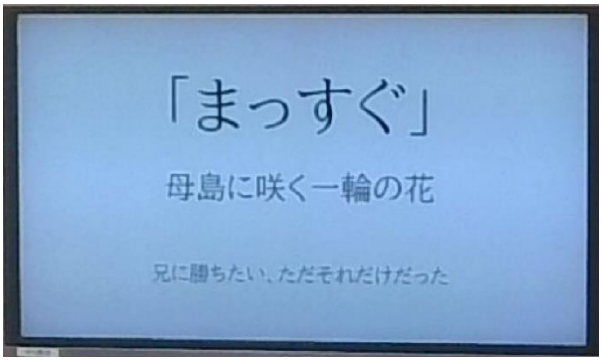
・アドバイスされる側にとっては，アドバイスを受けて今後の作品制作に生かそうと思えたのであれば，有効であった。

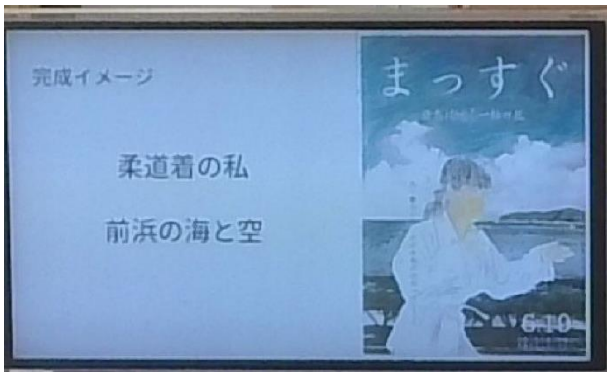
・作品の意図を説明する力は高まった。文章化による思考整理の価値はある。そのうえで対話するとさらに深まると考えられる。

・アドバイスを受けて今後の作品制作に生かそうと思えたのであれば，有効であった。

・既習事項がたくさんあることが土台となり，具体的な表現ができていた。







（ⅲ）上記を踏まえた成果と課題

ア　成果

・既習事項を活用することの重要性や，ブラッシュアップを目的とした他者との意見交換の価値などに気付き，作品制作の過程を充実させることができた。（中学校美術科）

・材料加工時にペアワークを実施することで，作業の改善案が発言された。（中学校技術科）

・名産品の栄養面に注目したキャッチコピーについてグループで考えることで，既習事項を踏まえながら他者の意見と比較し，まとめることができた。（小中学校家庭科）

・問題に対する各自の予想を文章で書かせ発表させることで，互いの予想の共通点や相違点を知ることができた。（小学校理科）

・自分の作品の工夫した点を作品カードに書いたり，互いの作品の良いところを伝え合ったりしたことで，制作意欲を高めることができた。（小学校図画工作科）

イ　課題

・今回の中間発表と完成作品の質は十分高いといえるものであったが，ゴールに到達するために必要な力として，計画性や継続力，主体性など，主に第３観点の力の弱さが顕著であった。課題解決能力を養うこともねらいとしているため，本題材終了後の達成感だけで完結して第３観点の力に成長が見られないような状況は避けなければならない。（中学校美術科）

→【改善案】

毎時の振り返りシートとは別に，題材全体を通しての総振り返りとしてレーダチャートを用いた自己評価とモチベーショングラフで自己分析を行い，今後につながるようなまとめをする。

・他者へのアドバイスは適切にできるが，自己分析に結び付かない。（中学校技術科）

→【改善案】

自己の作業を動画で振り返り，自己の改善点を振り返り用紙に記入する。

・既習事項と関連付けながら考えることはできるが，他者の意見に対して，自身の考えや意見を

表現することができない。（小中学校家庭科）

→【改善案】

目標に対して，理解したことや感想等を毎時間振り返り，用紙に記入する。

他グループの発表を聞き，お互いにアドバイスし合いながら考えを深めていく。

・実験結果が予想と合っていたか，違っていたかに対する関心は高いが，なぜ合っていたのか，なぜ違ったのかに対する考察が弱い。（小学校理科）

→【改善点】

「まとめ」の際に，自己の予想と実験結果の関係について考察し，振り返る時間を設ける。

・互いの作品の良い点を指摘することはできるが，そうでない点に対する改善策を提案することは，発達段階を考慮するとかなり難しい。（小学校図画工作科）

→【改善点】

悪口ではなくアドバイスであることを伝え，発達段階に即して出来る範囲で振り返りを行う。

（ⅳ）分科会の活動記録

日程	活動記録
4 月 25 日（木）	・第一回研究全体会 ・分科会長・授業者決定 ・分科会提案検討
5 月 18 日（木）	・分科会提案協議 ・指導案検討(授業時期，単元)
6 月 20 日（火）	・分科会提案協議 ・指導案検討(内容)
7 月 10 日（月）	・指導案検討本時(表現力を高める手法)
8 月 24 日(木)	・夏季休業中の課題確認 ・指導案本時案確認，観察の視点の検討
8 月 25 日（金）	・第二回研究全体会
9 月 8 日（金）	・指導案提出前確認
10 月 23 日（月）	・生徒の作業進行の確認，指導方法の微調整
11 月 13 日（月）	・研究授業前準備
11 月 15 日（水）	・研究授業当日

※上記日程以外にも，Google チャットのグループを分科会で作成し，頻繁に指導案修正，意見交換を行っていた。

（４）Ｄ分科会

① 分科会提案

（ｉ）分科会メンバー

○分科会長・小学校通級担当　○授業者・小学校５年生担任　○中学校音楽科担当
○小学校養護　○中学校保健体育科担当

（ⅱ）研究授業実施教科等

小学校第５，６学年　体育科　「体つくり運動」

（ⅲ）分科会による「表現する力」の定義等

ア　定義

「音声言語や文章，図や動作，タブレット端末などの道具を使い，自分の考えや思いを，他者に対して過不足なく正確に伝達したり，受け取ったりする力」

イ　定義の付けの背景

「自分の考えや思い」は，あくまで学習者による学習の目標や運動のポイント，自己評価や他者への助言などを指す。本分科会では,「表現する力」について，体育科等分科会が扱う教科等の評価における「技能」や「表現力」とは切り離して考える。「表現する力」が育まれることで，自身の学習への意欲の高まりや，自身の課題の焦点化等が期待でき,「技能」や「表現力」にもつながると考えるからである。

（ⅳ）育成を目指す資質・能力を身に付けるための分科会提案

（１）表現の的確な発信・受信を促進させる学習過程
（２）表現の的確な発信・受信を促進させる教師による言葉かけの工夫
（３）表現の的確な発信・受信を促進させるＩＣＴ機器の利活用

（ｖ）分科会提案の設定理由

（１）能力が決して低くないにもかかわらず，運動することに対して自信をもてないなど，自身を過小評価してしまう児童が一定数存在する。学習過程を工夫することによって，どの学習者も意欲的に，見通しをもって学習に臨むことができると考えた。
（２）多数であったり声が大きかったりする人の考えや思いに流され，自分の考えや思いを発信することを躊躇してしまう児童が見られる。普段何気なく行われる教師による言葉かけを分類,体系化し，意図されたタイミングで的確に行うことで，児童が自分の考えや思いに自信をもち，教師をモデルとしながら発信することができるようになると考えた。
（３）本校の児童には，その環境的要因から，表現したいものを発信・受信する過程において，言語化する際の語彙が不足していたり，多様な考えや意見，表現が生まれづらかったりするという課題がある。そこで，表現の発信・受信の媒介としてＩＣＴ機器を用いることで，表現の発信・受信が的確にできると考えた。

② 研究授業学習指導案

小学校　第５・６学年　体育科　学習指導案

日　時　令和５年11月７日(火)
６校時 14:20～15:05
学校名　小笠原村立母島小中学校
対　象　小学校第５・６学年７名
会　場　１階小中学校体育館
授業者

※授業者はＴ１～Ｔ３の３名で行う

母島小中学校研究主題
「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」

１　単元名

体つくり運動領域　「体の動きを高める運動」

２　単元の目標

ねらいに応じて，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする（知識及び運動)。

自己の体の状態や体力に応じて，運動の行い方を工夫するとともに，自己や仲間の思いや考えを他者に伝えることができるようにする（思考力，判断力，表現力等)。

運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動したり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする（学びに向かう力，人間性等)。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①体の動きを高める運動の行い方について，言ったり，書いたりしている。 ②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることができる。 ③人やものの動き，または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して，バランスよく動いたり，リズミカルに動いたり，力の入れ方を加減し	①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し，自己や仲間の課題を見付けている。 ②観察し合って見付けたことや分かったこと，解決の仕方や改善方法について伝えている。 ③自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり，動きに工夫を加えたりしている。	①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きを観察し合ったり，教え合ったりすることなど，仲間と助け合おうとしている。 ③学習に必要な物や用具の準備などで，役割を果たそうとしている。 ④運動の場の危険物を取り除くとともに，用具の使い方や周囲の安全にも気を配っている。

たりする体の動きを高めることができる。 ④自己の体重を利用したり，人や物などの抵抗を利用してそれらを動かしたりすることによって，力強い動きを高めることができる。 ⑤１つの運動又は複数の運動を組み合わせて一定の時間続けていったり，一定の回数を反復して行ったりすることによって，動きを持続する能力を高めることができる。		

４　指導観

（１）単元観

本単元は,「小学校学習指導要領第２章第９節体育　各学年の目標及び内容」にある「Ａ　体つくり運動」に位置するものである。高学年の体つくり運動は,「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され，運動の楽しさや喜びを味わうとともに，中学年までに身に付けた基本的な運動を基に，体の様々な動きを高めるための運動である。体の動きを高めることによって直接的に体力の向上をねらいとするが，児童が必要感のないまま運動を繰り返す活動にならないように，学習計画の工夫や自己評価することに重点を置いて指導を行う。

（２）児童観

本校は全学級が少人数学級のため，児童・生徒観の項目は児童・生徒の特定につながる恐れがあります。そのため『（２）児童観』の項目は学習指導案集において，非掲載とします

（３）教材観

本単元では，ＩＣＴ機器を活用した学習を行っていく。教員が作成した動きの例示を参考に，各自がそれらの運動のポイントについて考え，自分に合った動きへと昇華させていく。活動の中で，児童同士が互いを認め，尊重し合い，高め合う環境にするために，毎時間焦点を絞って教師が言葉かけを行っていく。

また，12 月に予定されているロードレース大会に向けての体力づくりとして，動きを持続する能力を高める運動を，単元を通して「リズムアップ」として授業の初めに取り入れる。曲に合わせて体を動かすことで，心身ともにリラックスした状態で本時の学習に臨めるようにする。

５　年間指導計画における位置付け －Ⅰ

１学期	２学期		３学期
陸上運動（短距離走，リレー），表現運動，体つくり運動 水泳運動 目や耳も使って運動をすることの楽しさを味わわせる。体力テストでは各自の目標得点を取れるように練習に取り組む。プールでの泳ぎを通して，巧緻性や持久力向上を図る。	器械運動（マット），ボール運動（ソフトボール） 自分の体を自由に動かす運動と器具を使った運動を行うことで，バランスよく，そしてリズミカルに動く感覚を養う。	体つくり運動，陸上運動（ハードル走） 「やってみる」ことを通して，問いを見いだし，自分の動きを評価できるようにする。どんな運動でもただ動くのではなく，どう動くと効率よく体を動かせるのかを考えるきっかけづくりをさせる。	器械運動（跳び箱），ボール運動（ソフトバレーボール，サッカー） チームで連携してゲームを行うこと通して，仲間と協力する態度を養う。礼を重んじ，相手を尊重する態度を養う。スポーツに親しむ資質を育む。

年間指導計画における位置付け －Ⅱ

小学校			中学校		高等学校
第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年	第１学年及び第２学年	第３学年	入学年次 入学年次以降
体ほぐしの運動遊び	体ほぐしの運動				
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	体の動きを高める運動		実生活に生かす運動の計画	

小学校第５学年及び第６学年の体つくり運動は，「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の２つで構成されている。手軽な運動を行うことで体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを主とした活動の「体ほぐしの運動」は高等学校まで同様の流れで単元が進んでいく。一方，小学校第５学年及び第６学年の「体の動きを高める運動」に関しては，小学校第１学年から第４学年で培った様々な体の基本的な動きを基に，体力を高めるためのねらいをもって運動することを目的としている。さらに，この単元は中学校第１学年及び第２学年では，ねらいに応じて運動を行ったり，組み合わせたりすること，第３学年以降は「実生活に生かす運動の計画」へと発展する。上記の内容を踏まえると，本単元の「体の動きを高める運動」は，生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するためにも大切な役割を担っていると言える。

６　単元の指導計画と評価計画（全６時間）

時	目標	○学習内容　☆表現活動	評価規準（評価方法）
第１時	問いをもち，学習課題を見いだす。	○運動と出会い，動きに対して問いをもつ。 ☆「やってみてどうだった？」	ウ－① （発言，学習カードの記述）
第２時	問いをもち，学習課題を見いだす。	○問いと学習課題の関係性を知る。 ☆「何を高めたいの？」 ☆「何が高まったと思う？」	ア－① （発言，学習カードの記述） イ－① （学習カードの記述）
第３時	「体の動きを高める運動」の学び方を知り，課題を解決しようとする。	○ポイントを見付けながら動きを高める。 ○動きを工夫しながら高める。 ☆「どうしたらできたの？」 ☆「どんな工夫をすると高められるかな？」	イ－② （発言） ア－② （観察，学習カードの記述）
第４時	「体の動きを高める運動」の学び方を知り，課題を解決しようとする。	○ポイントを見付けながら動きを高める。 ○動きを工夫しながら高める。 ☆「できるようになるポイントは何かな？」 ☆「何を高めるためにどんな工夫をしたの？」	ア－③ （観察，学習カードの記述） ウ－② （観察，発言）
第５時（本時）	学んだことを活用し，自己の体の動きを高めようとする。	○目的に応じて選択した運動のポイントを意識したり，動きを工夫したりしながら高める。 ☆「目標に向かって運動に取り組めているかな？」	イ－③ （観察，学習カードの記述） ウ－③ （観察）
第６時	学んだことを活用し，自己の体の動きを高めようとする。	○動きを工夫し，ポイントを見付けながら高める。 ☆「さらに体の動きを高めるためにどんな工夫ができそう？」	ア－④ （観察，学習カードの記述） ア－⑤ （観察，学習カードの記述） ウ－⑤ （観察）

7　研究主題に迫るための手だて

①学習過程の工夫

第５・６学年では，第４学年までの「多様な動きをつくる運動（遊び）」の経験をもとに学習を進めていく。その際，第１時で「やってみる」時間を設定し，児童が学習経験を想起しながら学習を進めていく。その中で児童がもった「問い」をもとに，一人一人が学習課題を見いだし，解決していくような学習過程を設定した。児童自身が学習課題を見いだすことで，自己評価する必要感につながると考える。児童は「『問いをもつ』→『学習課題を見いだす』→『運動に取り組む』→『問いをもつ』…」という学習を繰り返すことで児童自身が自己評価する力を高めていけると考える。学習過程上で，児童が取り組む運動について，「運動の適時性」や「体の動きを高めるための目的に迫れる運動」「動きのポイントを共有しやすい運動」「他者とのかかわりを生み出しやすい運動」を紹介していく。児童は紹介された動きから興味関心をもった運動や自己の体の動きに応じた運動を選択しながら学習を進めていく。このように「選択する」「実際にやってみる」ことを繰り返す経験が表現する力を高めることにつながると考える。

②教師の言葉かけの工夫

児童の学習課題に応じて，「運動を行っていて楽しい」と感じている場合は，運動への関心，意欲の向上や目的意識をもつことにつなげられるような言葉かけを行っていく。また，「動きが高まって楽しい」と感じている児童には，体の動きの高まりの実感の仕方が理解できるようになったり，行い方の修正や活用ができたりするような言葉かけを行っていく。児童と教師の関わりをモデルに，児童同士の関わりをより豊かなものにしていく。

③ＩＣＴ機器を取り入れた学習資料の工夫

本分科会では，学習カードに児童の学習状況や学習の変容を児童自身が把握できるような形式を取り入れた。児童が行ってきた活動を整理し，評価できるような学習カードを Google スライドで作成した。その学習カードには，「学習を通して分かったこと，気が付いたこと」「次の時間にどうしたいか」という視点で記述し，毎回の学習に生かせるようにした。動きを言語化することで，表現する力の向上を図る。

8　本時（全６時間中の第５時）

（１）本時の目標

学んだことを活用し，自己の体の動きを高めることができる。

（２）本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動　☆表現活動	・指導上の留意点　△配慮事項 □評価規準（評価方法）
導入 ５分	・場の準備 ・整列，挨拶 ・めあての確認	□ウー③（観察） ・これまでの学習で得た学びを共有し，本時に取り組む課題を個人で把握させる。

めあて　学んだことを使って、体の動きを高めよう。

展開 33 分	○学んだことを使って，体の動きを高める。 ・準備運動，リズム短なわ（５分） ○体の柔らかさを高めるための運動，巧みな動きを高めるための運動に取り組む（13 分）。 （下記から１～３種選択） ・輪くぐり・ゴムひもくぐり ・ボール転がし　・ボールドリブル ・バンブーステップ ・長なわ　・２人短なわ ・スラックレール ・ボールキャッチ ☆動きの工夫について共有する。（５分） ○力強い動きを高めるための運動に取り組む。（10 分）。 跳び箱ずもう　自分運び ・場の片付け ・整理運動	・動きを持続する能力を高めるための運動を，単元を通して実施する。 △アップテンポの曲を使用するため，運動が苦手な児童は自分に合ったリズムでアップを行う。 □イー③（観察，学習カードの記述） ・「目標に向かって運動に取り組めているか」に焦点を絞り，児童に言葉かけを行う。 △全員が表現活動に参加できるように言葉かけを行う（言葉かけ集参照）。 ・どんな活動をしたか全体に紹介させる。 ・新しい活動のため，やり方を確認してから取り組む。
まとめ ７分	○本時の振り返りをする。	・タブレットを活用して，学習の振り返りを行う。 △本時の活動を通して，次時にどの活動を行うかを考えさせる。

（３）本時の評価規準に応じた支援

	A評価	B評価	C評価
評価規準	自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり，動きに工夫を加えたりすることができている。	自己の体力に応じて取り組む動きを選んで活動できている。	自己の体力に応じて取り組む動きを選んで活動できていない。
児童への具体的な支援		よい部分を伸ばすのか，苦手な部分を改善するのかを確認し，活動を選択させる。	自分のできることに焦点を当て，よりよくできるよう言葉かけを行う。

（４）板書計画

白いプラスチック段ボールに以下の資料を貼り、学習の見通しや振り返りの仕方を確認する。

（５）ＩＣＴ機器の活用

（１）活用機器	タブレット端末：Chromebook
（２）使用ソフトウェア	ソフト名：Google スライド
（３）活用した学習場面	導入での動画視聴。動きの確認。児童間の意見共有。学習の振り返り。

（６）授業観察の視点

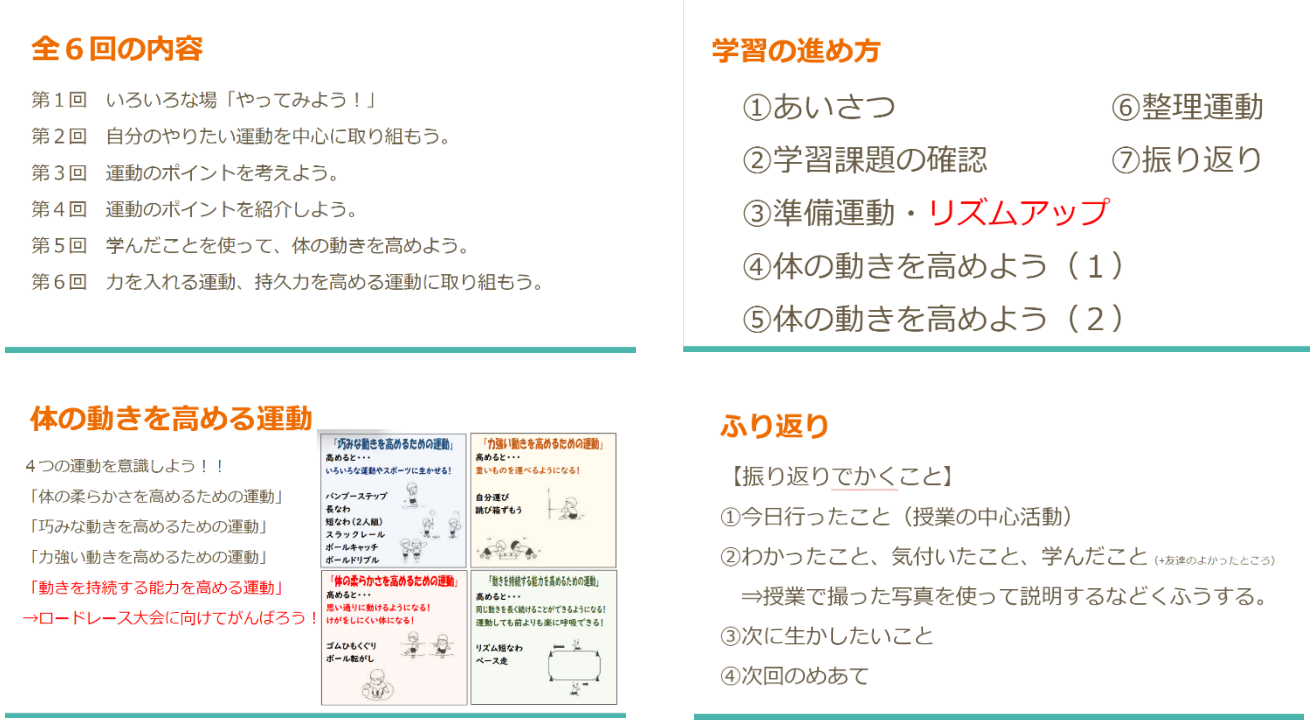
①ＩＣＴ機器の活用は，「表現する力」を高めるために有効であったか。

②教師による言葉かけは，「表現する力」を高めるために有効であったか。

９　参考文献

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領総則編』

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説体育編』



・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校　体育】』

追加資料 －Ⅰ　学習過程

<table>
<tr><td>時間</td><td>1</td><td>2</td><td colspan="4">3　　4</td><td colspan="2">5（本時）　　6</td></tr>
<tr><td>段階</td><td colspan="2">問いをもち，学習課題を見いだす</td><td colspan="4">「体の動きを高める運動」の学び方を知り，課題を解決する</td><td colspan="2">学んだことを活用し，自己の体の動きを高める</td></tr>
<tr><td>学習内容</td><td>運動との出会い
問いをもつ</td><td>問いと学習課題の
関係性を知る</td><td>ポイントを見付けながら高める</td><td>動きを工夫しながら高める</td><td>ポイントを見付けながら高める</td><td>動きを工夫しながら高める</td><td>目的に応じて選択した運動のポイントを意識したり,動きを工夫したりしながら高める</td><td>動きを工夫しながら高めるポイントを見付けながら高める。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学習活動</td><td colspan="9">1　集合,整列,挨拶を行う</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　これまでの学習経験を振り返る
3　体の動きを高める運動の映像を観る
4　準備運動を行う
5　体の動きを高める運動に取り組む</td><td colspan="7">2　自分の学習課題を確認する
3　準備運動・リズムアップ（動きを持続する能力を高めるための運動「ペース走」と「リズム短なわ」を交互）を行う</td></tr>
<tr><td colspan="2">2　前時にもった問いを共有する
3　準備運動・リズムアップを行う
4　体の動きを高める運動に取り組む</td><td colspan="4">4　体の柔らかさを高めるための運動
ボール転がし
輪くぐり・ゴムひもくぐり</td><td colspan="3">4　体の動きを高める運動の動きを選択して取り組む
・取り組む運動
→下記の内容から各自決める。
【前半】（1～3種まで）
輪くぐり・ゴムひもくぐり
ボール転がし　ボールドリブル
バンブーステップ
長なわ　2人短なわ
スラックレール
ボールキャッチ
【後半】
跳び箱ずもう　自分運び</td></tr>
<tr><td colspan="2">1・2時で児童が行うことができる運動
体の柔らかさを高めるための運動
巧みな動きを高めるための運動
輪くぐり･ゴムひもくぐり　ボール転がし
スラックレール　ボールキャッチ
長なわ　バンブーステップ　2人短なわ
ボールドリブル</td><td colspan="4">5　巧みな動きを高めるための運動
巧み前半→共有タイム→巧み後半
【第3時】　【第4時】
長なわ（タイミング）　2人短なわ（タイミング）
ボールドリブル（力加減）　ボールキャッチ（力加減）
スラックレール(バランス)　バンブーステップ(リズミカル)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">6　運動を通して考えたり感じたりして問いをもつ。
7　整理運動を行う
8　振り返りを行う</td><td>5　整理運動を行う
6　振り返りを行う</td><td colspan="4">6　整理運動を行う
7　振り返りを行う
（次時に取り組む運動を選択する。）
（第4時は，第5，6時の2時間分の運動を選択する。）</td><td colspan="3">5　整理運動を行う
6　振り返りを行う
※必要に応じて選択した運動を修正する。</td></tr>
<tr><td>教師のかかわり</td><td>**「やってみてどうだった？」**
子供の「やってみたい。」「楽しそう。」という思いを大切にする。実感したことを問いとして，価値付けていく。</td><td>**「何を高めたいの？」**
「何が高まったと思う？」
体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付けする。</td><td>**「どうしたらできたの？」**
ポイントを意識して運動することの大切さを確認する。</td><td>**「どんな工夫をすると高められるかな？」**
動きを工夫する視点を示しながら動きを高める方法を確認していく。</td><td>**「できるようになるポイントは何かな？」**
異なる運動でも，ポイントを意識ながら運動することの大切さを確認する。</td><td>**「何を高めるためにどんな工夫をしたの？」**
異なる運動でも，体の動きをさらに高めるための工夫を考えられるように言葉掛けをする。</td><td>**「目標に向かって運動に取り組めているかな？」**
目的意識をもって運動に取り組めるように言葉掛けをする。</td><td>**「さらに体の動きを高めるためにどんな工夫ができそう？」**
「力強い動きを高める運動」「動きを持続する能力を高める運動」でも，これまで身に付けてきた学び方を意識できるようにする。</td></tr>
</table>

追加資料 -Ⅱ　リズムなわとび　曲：三浦大知「EXCITE」

時間	指導内容	留意事項
０：００	８の字回旋→返し ８カウント×２　８カウント×２	腕を大きく回して，肩回りをほぐす。
０：１６	前ふり ８カウント×４	１回旋・２跳び（膝曲げ），１回旋・２跳び（膝伸ばし）。 膝の曲げ伸ばしを意識して行う。
０：２８	左・右・前・後 ８カウント×４	１回旋・２跳び 左足→右足→左足→右足のステップで繰り返し跳ぶ。 リズミカルに行う。
０：４２	かけ足※１ ８カウント×２	１回旋・１跳び 曲を聴きながら，テンポを意識する。
０：４９	前とび※２ ８カウント×２	１回旋・１跳び 曲を聴きながら，テンポを意識する。
０：５６	二重とびまたはあやとび※３ ８カウント×４	１回旋・１跳び 自分に合う技で行う。
１：１２	グーパー ８カウント×４	１回旋・２跳び（グー），１回旋・２跳び（パー） 開く，閉じるのメリハリを付ける。
１：２４	グーチョキ ８カウント×４	１回旋・２跳び（左足前），１回旋・２跳び（右足前） できるだけ足を開くようにする。
１：３６	けんけん ８カウント×２	１回旋・２跳び リズミカルに行う。
１：４３	※１～※３	１回旋・１跳び
２：１２	屈伸→伸脚→手首足首→アキレス腱→軽いジャンプ かけ足準備	体の緊張をほぐしながら，最後の繰り返し跳びに備える。
２：４３ ３：００	※１～※３ つまさきで止める	１回旋・１跳び できるだけ失敗せずに跳ぶことを意識する。

追加資料 -Ⅲ　学習カード　Google スライド「体育ノート（体つくり運動）」

③　分科会報告（研究協議会、指導・講評を受けた振り返り）

（ｉ）授業者による研究授業の自評

・たくさんの先生方に支えられて授業ができたことに感謝している。

・子供たちの伴走者ということを意識して授業をした。

（ⅱ）研究授業後に参観者から得られた意見や評価

ア　実践女子大学大学教育研究センター特任教授　中村一哉　先生による指導と講評

・教育研究の基本的な流れが，指導案を読んでよく分かった。

・児童の課題の焦点化をしていく必要がある。他の教科でも課題について共通点があれば生かせるチャンスではないか。

・教師の「言葉かけ」の分類・整理について。児童に考えさせたり，選択させたりできる「言葉かけ」ができていた。

・小学校での学びや「言葉かけ」が，中学校の運動や表現力の向上につながっていく。

・表現力の向上を通して育成する児童・生徒像については，今後変わっていく可能性があると思うが，学習の時間や小笠原学習，総合的な学習の時間で子供たちを育てる意識をもち続けることが大事だと考える。

イ　参観者からの意見や評価等

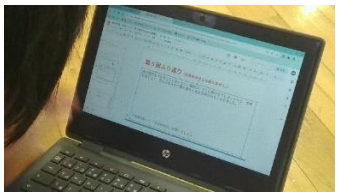
・教師による言葉かけによって，児童が前向きに活動に臨んでいた。

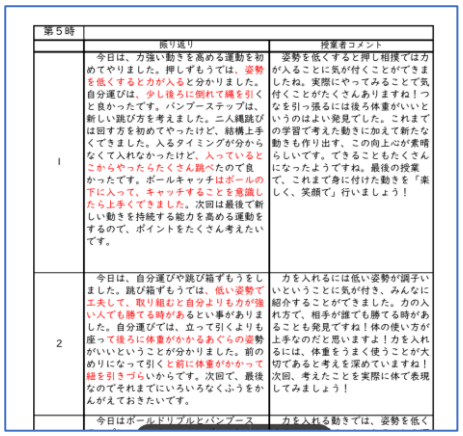
・言葉かけ以外にも，学習過程や場づくり，写真へのコメントなど，児童が自身の目標を達成するための工夫が随所に見られた。

・スプレッドシートを活用した児童の振り返りと，それに対するコメントが大変充実していた。回を重ねるごとに児童の次時へのねらいが焦点化され，体の部位や動きに対する表現も充実していった。

・教師から児童への言葉かけは充実していたが，児童同士での言葉かけが見られなかったのが残念だった。

・活動する種目の数や，言葉かけの用語などについて，さらに工夫・精選する余地がある。





第５時		
	振り返り	授業者コメント
1	今日は、力強い動きを高める運動を初めてやりました。押しずもうでは、姿勢を低くすると力が入ると分かりました。自分運びは、少し後ろに倒れて縄を引くと良かったです。バンプースステップは、新しい跳び方を考えました。二人縄跳びは回す方を初めてやったけど、結構上手くできました。入るタイミングが分からなくて入れなかったけど、入っているとこからやったらたくさん跳べたので良かったです。ボールキャッチはボールの下に入って、キャッチすることを意識したら上手くできました。次回は最後で新しい動きを持続する能力を高める運動をするので、ポイントをたくさん考えたいです。	姿勢を低くすると押し相撲では力が入ることに気が付くことができましたね。実際にやってみることで気付くことがたくさんありますね！つなを引っ張るには後ろ体重がいいというのはよい発見でした。これまでの学習で考えた動きに加えて新たな動きも作り出す、この向上心が素晴らしいです。できることもたくさんになったようですね。最後の授業で、これまで身に付けた動きを「楽しく、笑顔で」行いましょう！
2	今日は、自分運びや跳び箱ずもうをしました。跳び箱ずもうでは、低い姿勢で工夫して、取り組むと自分よりも力が強い人でも勝てる時があるとい事がありました。自分運びでは、立って引くよりも座って後ろに体重がかかるあくらの姿勢がいいということが分かりました。前のめりになって引くと前に体重がかかって紐を引きづらいからです。次回で、最後なのでそれまでにいろいろなくふうをかんがえておきたいです。	力を入れるには低い姿勢が調子いいということに気が付き、みんなに紹介することができました。力の入れ方で、相手が誰でも勝てる時があることも発見できましたね！体の使い方が上手なのだと思いますよ！力を入れるには、体重をうまく使うことが大切であると考えを深めていきましょう！次回、考えたことを実際に体で表現してみましょう！
	今日はボールドリブルとバンプース	力を入れる動きでは、姿勢を低く

（ⅲ）上記を踏まえた成果と課題

ア　成果

・学習過程を工夫することで，児童自身が課題を見出し，実践し，振り返るという一連の流れを，無理なく，意欲的に行うことができた。

・教師による言葉かけを体系化し，意図的なタイミングで実施することで，児童の学習意欲向上のみならず，児童自身の「表現する力」の醸成にも寄与することができたと言える。

・ＩＣＴ機器を活用した学習カード及び振り返りは，児童の「表現する力」の高まりや次時の活動に対する目標の焦点化に大きな効果をもたらした。加えて，実際に体育館に貼られている写真や運動のポイントの付箋など，アンプラグドなツールを併用することで，実際の活動やそれを行う場と学習カードとのリンクを高め，「表現する力」の具体化，的確化を促進させた。

イ　課題

・教師対児童の言葉かけは成果記載の通りであるが，それと比べて児童同士での言葉かけは，あまり充実していなかった。

→【改善案】

本単元を通して高められた児童個々人の「表現する力」が，他の運動領域（特に「ボール運動」領域など）において，児童間の言葉かけの萌芽につながってくると考えている。以降の単元で追検証を行っていく。

・研究授業当日，参観教員にも，言葉かけや運動への参加を呼びかけた。これは，児童の学習への意欲を高めることを主なねらいとして行ったものであったが，充実した活動とはならなかった。

→【改善案】

“自分のお気に入りの運動を見ている人に紹介する”ということ自体を単元の目標にする。

ウ　成果検証の方法

今回の研究授業を含む単元計画において，児童の変容を見取り，検証していくには，振り返りの記述内における言葉の使い方を分析していく方法が妥当であると考えた。教師による言葉かけを中心に，学習の過程で得られた言葉（用語，動きを表す言葉など）を適切に使えているか，また，それにより次時以降の学習に対する目標が具体化，焦点化されているかを見取ることができる。加えて，授業中の児童の発言記録を分析することも有効であると考えた。記述式の振り返りが難しい低

学年児童に対する検証方法として有効である。教師による言葉かけや振り返りに対するコメントを前提とすれば，これらの検証方法はどのような教科等の学習でも有効であると考える。

エ　授業者以外の実践

〈音楽科での取組〉

小学校音楽科では，児童が「表現する力」を高め，学習のねらいを焦点化することができるよう，音楽用語や音楽記号を言葉かけの中に意図的，計画的に盛り込んだ実践を行った。児童は，音楽用語などを適切に使いながら，自分で作ったリズムパターンを紹介したり，楽器の種類や鳴らし方を説明したりすることができた。

中学校の創作分野ではＩＣＴ機器を活用し，「自分が意図をもってつくった旋律が，相手にどのように伝わっているのか」に焦点を当てた。「反復」「変化」「順次進行」「跳躍進行」など，音楽的な理論を意図的にしかけた旋律の創作を進めた。“しかけ”に気付くために，音源だけではなく，音符や休符を図形で表した「図形楽譜」と共に，発表を行った。その結果，五線譜の楽譜よりも，音の高さや反復，順次進行，跳躍進行，休符が鮮明になった。これにより，作曲者の表現したかったことを感じとり，音楽用語をたくさん使用しながら発言することができた。自分が意図をもって創作した旋律が思うように相手に伝わっていたことが自信になり，次の創作活動の意欲へとつながった。

〈体育／保健体育科での取組〉

保健体育科各単元で技能のポイントを視覚的にわかりやすく示すことで，生徒が共通の視点をもって話し合うことができるようにした。ＩＣＴ機器を活用してラップタイムをグラフとして即時に確認したり，遅延再生ソフトを活用して自己の技を振り返ったりした。また，感覚的に学んだことを学習カードに文章にして表現することで，表現力を高めながら，自己の学びをまとめることができた。

小学校第５学年での体育科保健領域「心の健康」の学習では，第１時にコンセンサスゲームを行うことで，「表現する力」の向上を図った。話し合いをするときのポイントや具体的なワードを提示した。教師も意図的にそのワードを使用することにより，児童からも相手の意見に感心したり，深く知ろうと質問したりする発言が見られた。また，話し合い方を自己評価することで，次時以降の活動においても，児童同士でのよい言葉かけを継続する様子が伺えた。

（ⅳ）分科会の活動記録

日程	活動記録
4 月 25 日（火）	【研究全体会①】 ・分科会長，授業者，教科等の決定。 →回覧などで情報を共有。
8 月 24 日（木）	・第２回研究全体会に向けて。
8 月 31 日（木）	・分科会提案について。 ・学習指導案について。 ・今後の予定の確認。
9 月 9 日（土）	・分科会提案について。

	・学習指導案について。 ・今後の予定の確認。
10 月 3 日（火）	・第 1 時で使用する動画の撮影。
10 月 20 日（金）	・単元の流れについての確認。 ・動画撮影などの役割分担。
11 月 7 日（火）	・研究授業及び研究協議会。
1 月 9 日（火）	・分科会報告原案の検討。

※上記は主な事項である。この他に，日常的にチャットツール等オンラインを活用した意見交換を進めた。

５　令和５年度　校内研究を振り返って

小笠原村立母島小中学校　進路指導・研究部

令和４年度までとは研究主題を変え，児童・生徒の実状に合わせ『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』を育てられるよう１年間，所属教員全員で研究を行ってきた。

まず，目指すべき「表現する力」とは何かを考えた。本校の研究主題『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』の『表現』は，学習指導要領上で扱われている内容を基にさらにその範囲を膨らませている。『表現』とはアウトプット全般のことを指し，児童・生徒が文章で記述・発表・説明することや，実用的なものを製作，芸術的なものを創作したり歌や曲，動作で表したりして相手が見たり聞いたりして考えや思いが伝わるものすべてを『表現』とした。

その幅広くとらえられる『表現』を伸ばそうと，各分科会で焦点を絞り，協力しあいながら研究を進めた。

本校では管理職を除き小学校籍の教員が９名，中学校籍の教員が 10 名在籍している。児童・生徒の人数から考えると教員数は多いが，クラス数や地域の特色ある行事を考えると，とても人が足りている状況ではない。中学校でも同じ教科の教員が２人いることはない。そのような環境では教材研究の際にどうしても単独での研究になってしまっていた。ひとつの目標を準備し，小学校籍・中学校籍の教員が合同で分科会を作ることで他校種の視点をもって教材研究を行え，普段の授業準備から意見交換をできるようになるのではと考え，進路指導・研究部（以下，研究部）では場を整えてきた。

研究部では数年前から「付箋を使った協議会」や「授業力の６要素を意識した意見」を提案してきた。研究授業を当日だけで判断すると指摘する点がその授業者の指導力に偏ってしまい，本当に議論したい「授業観察の視点」から論点がぶれてしまうことがある。そのような協議会では分科会や校内全体のためにならない。また協議会では，参観者が意見を伝える際には改善点を指摘するだけでなく改善案を必ず提案するよう心掛けてきた。良くするにはどうしたらいいかを全体で考えていくためである。その蓄積が少しずつ本校教員の向上心を高め，チームで学び，さらに意見交換できる形ができてきた。そしてタブレット端末が児童・生徒・教員に配布された際には全員で学び，ジャムボードを使用した協議会をコロナ禍から継続して行ってきた。短所を指摘するのではなく長所を活かして学ぶ意識が芽生えてきた。

今年度は各分科会に所属する教員の，教科の専門性を踏まえ，児童・生徒が「表現する力」を伸ばせるよう多くの協議を重ね，それぞれの授業が提案された。課題があるのは確かだが，着実に児童・生徒の「表現する力」は伸びていることが実感できている。今年度の成果と課題を踏まえ，どの分科会も次年度はより成果を上げられるよう改善し提案していけるだろう。

一方，多くの教員が児童・生徒の変容から成果を実感できているものの，その成果を数値化して分析することが難しかった。年度当初から研究部で何度も検証方法について話し合ったが，年度の途中まで具体的な手だてを提示するまでに至らなかった。

しかし，11 月の授業研究において，講師である実践女子大学教育研究センター特任教授　中村一哉先生の御指導・御助言がヒントになり，授業で取り組んでいる「児童・生徒の自己評価（振り返り）」から，本校の「少人数学級」の利点を生かして一人一人の変容を丁寧に見取ることで検証できるのではないかと考えた。

そこで，研究部では，「振り返りの活用による研究成果の検証」を行うとした。理由は次の２点である。①教科の特性に合わせた「授業の振り返り」を適切に実施していけば，その振り返りの蓄積から教師は

一人一人の成長を見取ることができる。②視点を焦点化するなど振り返りの仕方を工夫すれば，児童・生徒が「表現する力」を使用する授業で自己評価でき，自身の成長を感じることができる。

また，この取組は校内研究の成果検証にとどまらず，所属教員一人一人の授業改善にもつながると考えた。

それ以後，本校教員が個別に実践している児童・生徒の自己評価や振り返りのフォーマットを集約し，全教員で実施できるよう一般化を図った。３学期には取り組める教員から順次実践した。次年度からは本校共通の取組としてタブレット端末を利用した「授業の振り返り」を発達段階や教科に応じて行えるよう提案を行った。小中それぞれの教員が作成した多種多様な「振り返り」を共有することにより効果的な方法を模索するきっかけになった。教科の特性に合わせつつ，児童・生徒の発達の段階に応じて義務教育９年間を一貫して使用していくことができる「母島小中学校の振り返り」を検討していけるのではないかという考えに至った。

この一年を通して，校内研究の『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』を育てられるよう小学校・中学校教員が混同で教科の専門性で分科会を作り，小学校・中学校の双方の視点から協議を行い，実践，全体で協議してきた。その中で各教科の小中一貫した系統の理解が深まった。また，授業改善を常に意識していて，開発してきた教材を各分科会で共有し合ってきた。そのひとつである「振り返り」を校内全体で共有でき，全体での取組として提案できた。またそれを快く受け入れるだけでなく，多くの教員が自分の使ってきた振り返りのファイルを共有し合えた。これも児童・生徒のために協力して授業改善に取り組むことができている本校の成果だと考える。

次年度には今年度の取組を改善し，より発展させ，実践していきたい。そして『自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子』を育てていきたい。そのためには本校の教員が一丸となって，同じ目標に向かって協力し合って授業研究，授業改善に取り組んでいかなくてはいけない。今年度の校内研究の実践を踏まえ，本校は次年度でより成果を上げられるだろう。そのためにも研究部内での研鑽を深め，研究部員が授業改善の模範となり，校内の研究を運営していきたい。そして本校の児童・生徒が「表現する力」をより高め，充実した学習活動を行っていけるよう尽力していきたい。

お　わ　り　に

小学校副校長　旭岡　真司
中学校副校長　山口　優

本校では，令和５年度・令和６年度の「小笠原村小中一貫教育推進指定校」として研究発表をすることを見据え，今年度，研究主題「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」と設定し，全教職員で実践的な研究に取り組んできました。

研究主題設定にあたり各種学力調査を分析した結果，どの教科でも記述式の問題において正答率が下がるという傾向があることから「相手に伝わるように表現できる力」をもつことが母島小中学校の児童・生徒の課題であると考えました。授業研究をするにあたり，４分科会の構成は，昨年度に引き続き所属メンバーとして小学校教員，中学校教員が各分科会に入ることにより小・中学校の連携を強固にすることができました。「表現する」ということの定義については，教科・領域・学年により大きく異なることから，実施する授業ごとに「表現する」ということの定義を各分科会で議論，検討し提案を行いました。このことにより，ややもすると教科担当者に任せきりになりがちな研究が，全教職員で取り組めることにつながったのは大きな収穫でした。次年度に研究発表をする上で，研究主任，進路研究部の教員を中心に組織的に熱心に研究をすすめたことで，児童・生徒の表現する力が育まれさらに研究を深められる自信となりました。

今年度の研究を進めるに当たり，昨年度に引き続き，小中一貫教育の御指導に関して実践女子大学　大学教育研究センター 特任教授 中村一哉先生に貴重な御指導・御助言をいただきました。誠にありがとうございました。さらに，日頃より温かい御指導・御助言をいただいております小笠原村教育委員会の皆様には，心より感謝申し上げます。

母島小中学校では，「９年間を通じて子供たちの将来につながる基礎をしっかりと身に付けさせ，夢や可能性を広げる」ことを念頭に教育活動に携わっています。どのような場でも堂々と自分の意見を表現できるような「母島っ子」の育成のために研鑽を深め，これからも発展していくことを願っています。

今後も引き続き，研究の成果を全教員で日々の指導に生かしていきたいと考えています。皆様方から，さらなる御指導・御鞭撻をいただけましたら幸いに存じます。